

カラヤ株式会社創業一五〇周年記念誌

感謝・爛爛・躍動

カラヤの一五〇年

150th ANNIVERSARY COMMEMORATIVE ISSUE KARAYA GROUP

人とつながり続けて150年



目次

CONTENTS



ご挨拶 カラヤ株式会社 代表取締役社長 山本 仁左衛門	04
祝辞 武生商工会議所 会頭 三田村 俊文	05
社是・社員訓・グループ統一シンボルマーク	06
カラヤ株式会社 現役員	07
カラヤ株式会社 年代別役員履歴状況	08
カラヤ ギャラリー	10
創業家 山本家の歴史	17
川中まささんが語る カラヤと山本家	28
カラヤの歴史 第1章 創業～戦前	31
第2章 戦後昭和期	37
第3章 平成～創業150周年	47
現社長が語る カラヤ回顧録	56
営業所紹介	63
カラヤグループ組織図	78
WORKSライブラリー	79
カラヤの歩み	90
歴代スローガン	98
編集後記	99

コラム

① 本隆寺の七條と表彰状	27
② 付藻茄子と山本家	27
③ 福井県実業家案内すご録	35
④ 引き札	36
⑤ カラヤと電話	36
⑥ 昭和50年代半ばのカラヤ推奨新商品	44
⑦ カラヤとボランティア活動	46
⑧ 低成長時代の企業経営	55

カラヤ株式会社創業150周年を
迎えらるにあたって

武生商工会議所
会頭 三田村 俊文

この度は、カラヤ株式会社創業150周年誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。

貴社が創業された越前市は、奈良時代に国府が置かれて以来、商いの盛んな街として、また北陸の玄関口として発展してきた歴史文化に育まれた地域であります。

お聞きしますと、山本家のルーツは戦国末期までさかのぼることができる商家として呉服・油・紙・唐物などの商材を扱われ、明治初年、現在に繋がる金物商として創業以来今年で150年を迎えられたということですが、明治・大正・昭和・平成と時代や、経営環境も大きく変化する中であって、幾多の困難を乗り越えられてきたことと思います。

歴代社長の常に時代の先を読む鋭い経営感覚と、社長をはじめ従業員の地域にしっかりと根差した人間力による商いが、まさに長寿企業の土台を支えておられるものと深く敬意を表する次第であります。

また、貴社におかれては、常に地元の顧客との結びつきを大事にされ、地域密着型の企業経営を商いの基本として貫いてこれられるとともに、会社が社員を大切にすることで強い信頼関係を構築されていることが今日の繁栄に繋がりが、正に旧商家としての考え方が、今もなお企業経営の遺伝子として息づいておられるのだと思います。

これからも21世紀にふさわしい、地域・顧客に愛される200年企業を目指して、地域経済発展のため、益々のご活躍を期待しております。

最後に、創業150周年を契機として、より一層のご発展をお祈り申し上げますとともに、山本社長様をはじめ社員皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

本日は、誠にありがとうございました。

平成28年10月15日（土）

創業150周年記念誌
発刊にあたって

カラヤ株式会社は、お蔭様をもちまして本年個人創業以来150周年を迎えることとなりました。創業150周年の節目にあたり、創業から現在までのカラヤの歩みを振り返り、関係資料の収集・編集を行い、記念事業の一環としてここに「カラヤ株式会社創業150周年記念誌」を発刊することと致しました。発刊にあたっては社内に編纂チームを組織し、各方面からの資料ご提供やご協力などを頂きました。ご協力いただきました関係者の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

これまでの150年の足跡を振り返りますと、その道筋は決して平坦なものばかりではありませんでした。先人も含めて、その時々において幾多もの厳しい試練に見舞われるなか、こうして今日を迎えられましたことは、何よりお客様やお取引先様から賜ったご支援ご指導、経営を支えてこられた諸先輩方、株主様、地域の皆様など長年に亘る関係各位のご支援の賜と深く感謝申し上げる次第であります。

私たちカラヤは、これまで数多くの場面で受けた『感謝報恩』の気持ちを決して忘れることなく、今後も誠実に歩み続けていきたいと考えております。その意味におきましても、先人の足跡を辿ってしっかりと確認し、胸に刻んでおくことは未来に向けて更なる飛躍を遂げるためにも重要かつ大変意義深いことだと考えます。

いつの時代にも、その時代時代の大変さがありますが、今私たちを取り巻く環境もかつてないスピードで変革を遂げようとしています。この記念すべき150周年を契機に社員一丸となり、どんな変化にも耐えうる企業体質を再構築し、より品格を高めて良き企業市民としてお客様のため、地域発展のために邁進する決意であります。企業は人が財産です。「人なくして企業なし」のポリシー、「三方良し」の精神も確実に次世代に受け継いで参ります。

結びとなりますが、皆様方には今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。



カラヤ株式会社
代表取締役社長

山本仁左衛門

社 是

自ら品性の陶冶に^{はげ}錬み、健全な身体で、
企業活動を通じ、道義社会の建設に邁進せよ。

社 員 訓

感謝報恩 諸恩人から受けた無形の借財の返済に務めよう。
率先開発 時の流れに注意し、営業の合理化と、商品の開発に励もう。
明朗潤達 まず心身の健康を図り、毎日を明るく、楽しく、有意義に送ろう。



頭文字のKをモチーフにした
グループ統一のシンボルマーク

左側の正方形は飛翔への発着場を表現し、斜上方に向かう台形は未来への飛躍を表し、
斜下方に向かう台形はバランスをとるための基礎構築物を、意味しています。

平成4年1月21日制定

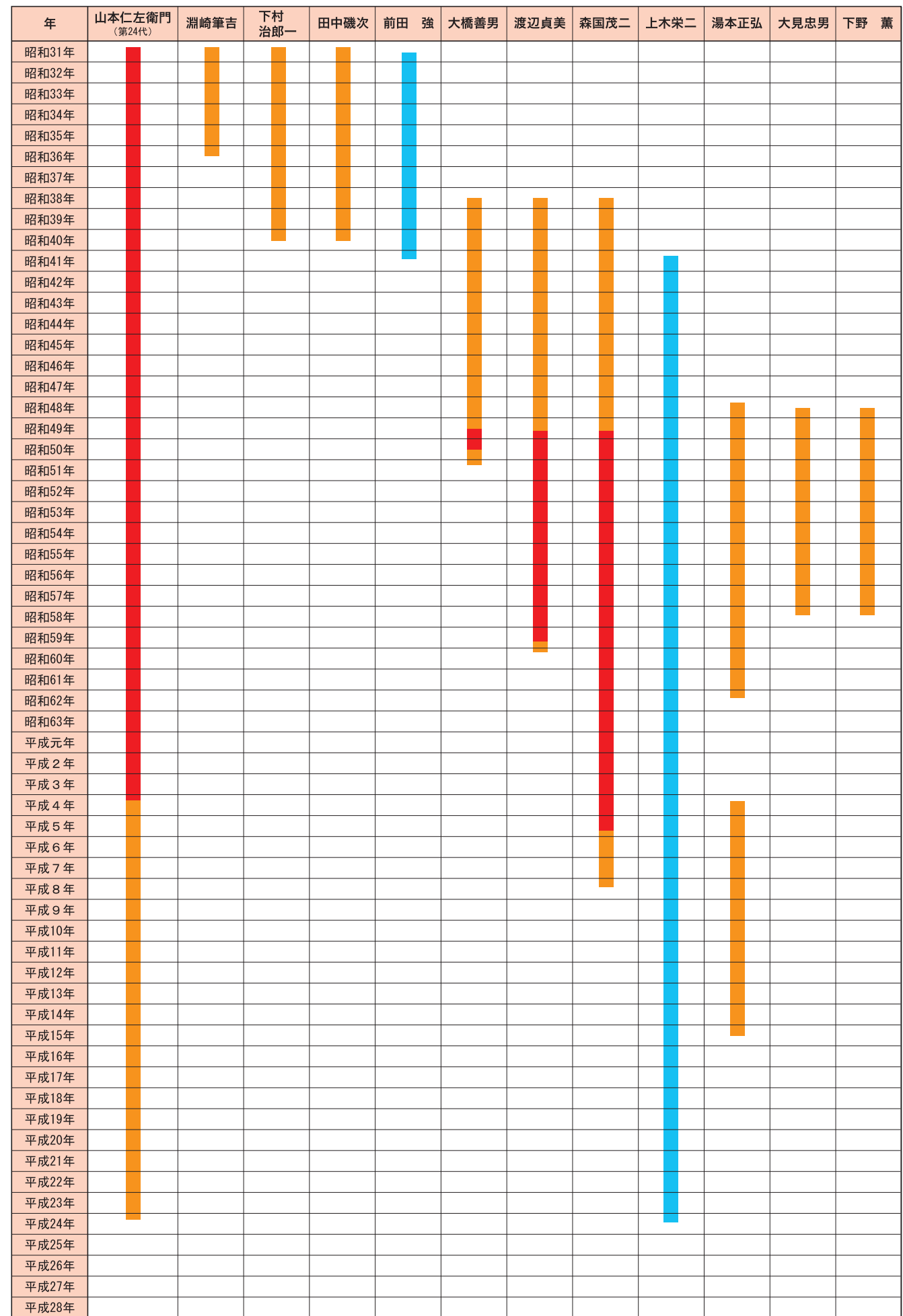
カラヤ株式会社 現役員



取締役	取締役 (兼)ヤマモトスチール常務取締役	代表取締役社長	代表取締役専務	取締役 (兼)カラヤレンタリース常務取締役	取締役
山下 悟	山本 庸一郎	山本 仁左衛門	山本 直孝	山本 友直	山本 仁

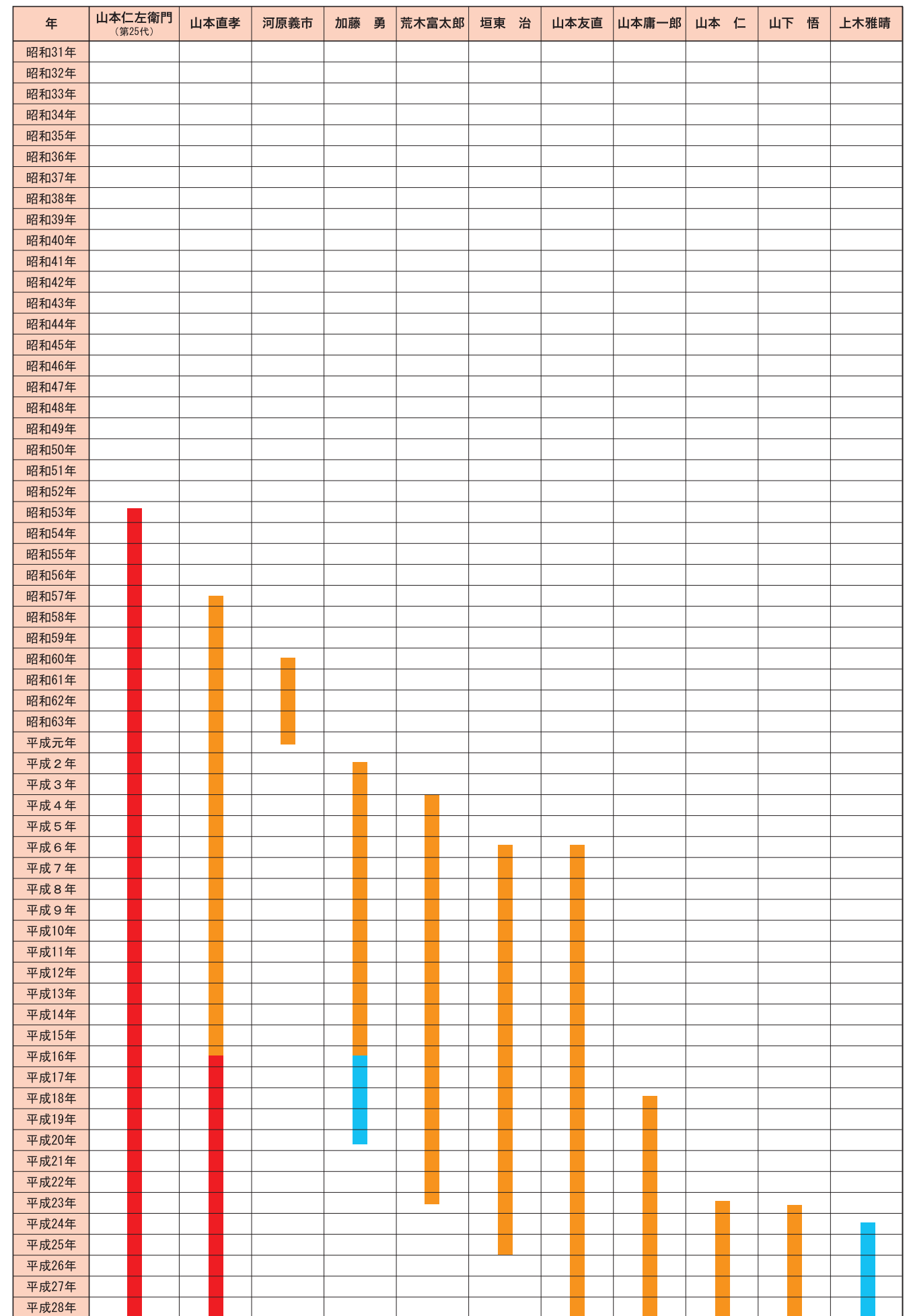
●カラヤ株式会社 年代別役員履歴状況

— 代表取締役 — 取締役 — 監査役



●カラヤ株式会社 年代別役員履歴状況

— 代表取締役 — 取締役 — 監査役

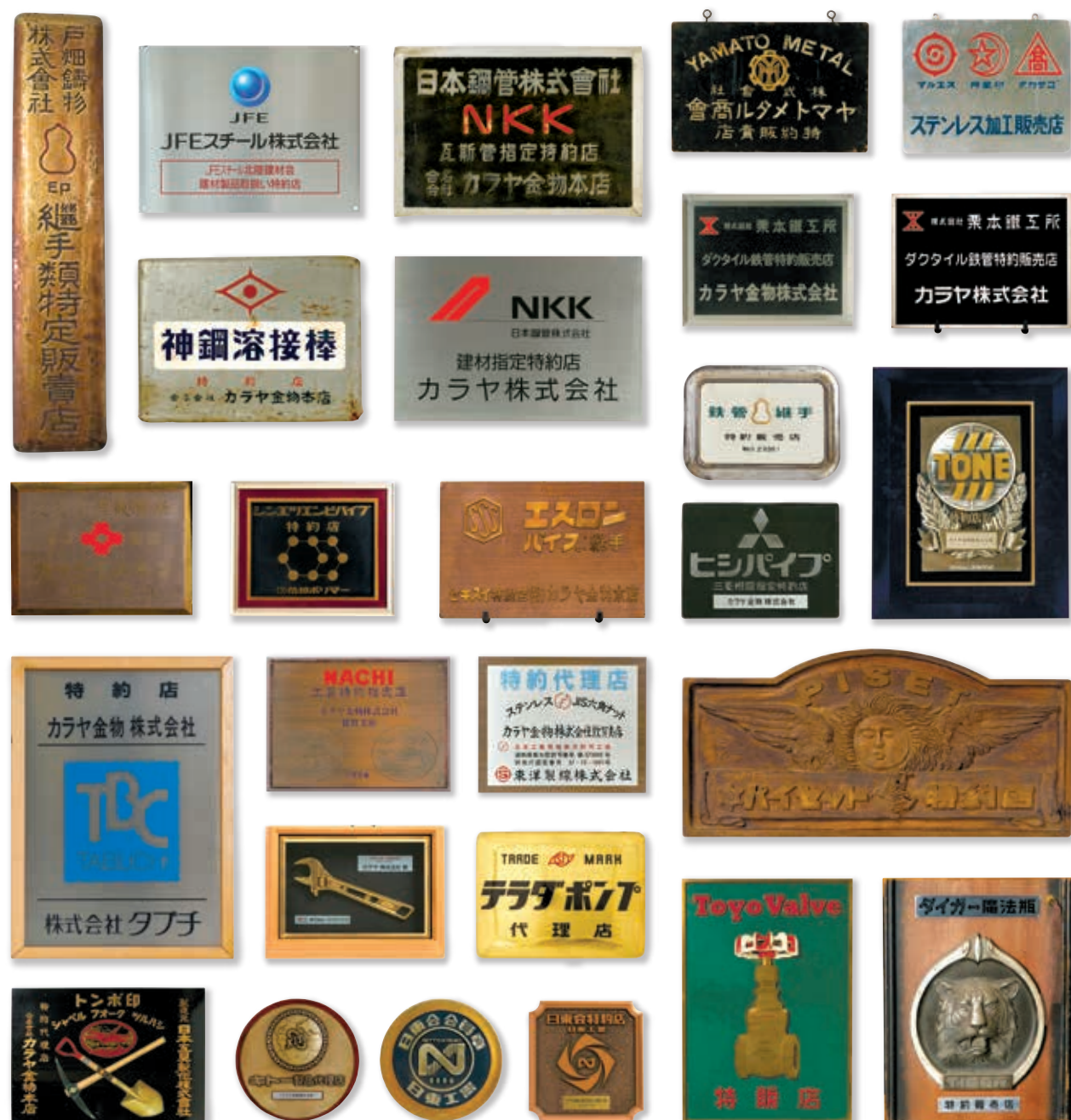


KARAYA GALLERY

カラヤ ギャラリー①

看板コレクション

カラヤは鉄鋼や管材メーカーの地方特約店として、古くから数多くの金物や鉄材を取り扱ってきました。日本は鉄資源に乏しく、時には統制が必要な時代もありました。特約店となれる会社も限られており、古き時代の特約店看板は、歴史の重みだけでなく、会社としての信頼や実績の証としても貴重なものと言えるでしょう。



往年の営業車

金物や鉄鋼などの配送のため、カラヤでは古くから営業車が活躍していました。カラヤの文字が記された懐かしいフォルムの車体に、高度成長期の日本の姿を垣間見ることができます。



KARAYA GALLERY

カラヤ ギャラリー②

古きものたち

カラヤには、古き時代を築いてきた数々の逸品が残っています。



●秤・分銅
釘や針金などの商品は重さで取引するのが基本。秤は不可欠な商売道具でした。「グラム」ではなく「貫」の目方がついた古い時代の分銅も残っています



●電話機
カラヤは武生で最も早く電話回線を引きました。かつての古い電話機も残っています



●レジスター・計算機
古い時代のレジスターと計算機。今見ると、なんとも面白い趣があります



●時計
その時々において時を刻み、社員のすぐそばで動き続けてきた時計たち。大正3年11月と記されたゼンマイ時計から、神戸製鉄所から寄贈された大型時計まで。役目を終えた時計たちは、社長宅の蔵でひっそりと休息しています



●鍋・釜類
昔は丁稚さんたちが住み込みで働いており、食事と一緒にしていました。その頃、賄いを作るのに使っていた鍋・釜類が今も残っています

社員アルバム

社員旅行や運動会、新年会など、社員の親睦を深める行事もたくさん行われました。ファッションやヘアスタイルなどが時代を物語っています。



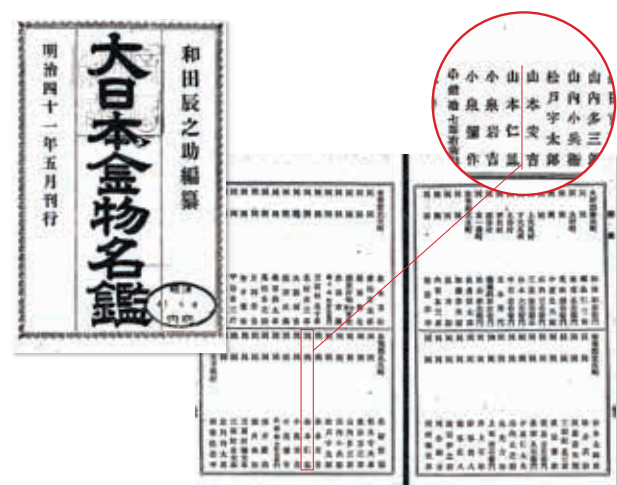
KARAYA GALLERY

カラヤ ギャラリー③

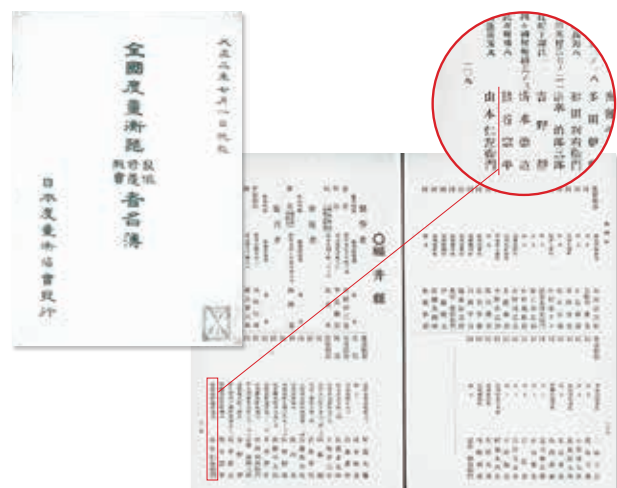
商工名鑑からたどるカラヤの歴史

明治から昭和初期にかけての商工名鑑にカラヤ（山本家）の名前を見ることができます。最も古いものでは、明治25年（1892）4月発行の「日本全国商工人名録」に「国産鎌及刃物卸商 諸金物販売」と記載されています。大正5年（1916）8月発行の「日本全国商工人名録」には「金物セメント度量衡」、大正10年（1921）10月発行「日本全国商工人名録」には「銅鐵金物商」、大正14年（1925）11月発行「大日本商工録」には「金物鐵銅工具器械」とあり、カラヤが取り扱っていた主要商品の変遷をたどることができます。

明治25年 4月発行	日本全国商工人名録 国産鎌及刃物卸商 諸金物販売 蓬萊町 山本太四郎
明治31年12月発行	日本全国商工人名録 鎌度量衡器販売 蓬萊町 山本太四郎
明治41年 5月発行	大日本金物名鑑 南条郡武生町 山本太四郎 山本仁鳳
大正5年 8月発行	日本全国商工人名録 金物セメント度量衡 越前武生町蓬萊 カラヤ仁左衛門 山本仁左衛門 銀行五十七銀行
大正6年 11月発行	東洋金属名鑑 国産打刃大工道具 金物雑貨商 武生町蓬萊五十九 山本仁左衛門
大正7年 5月発行	大日本商工録 南条郡武生町大山二八 金物商並鐵工業 山本仁鳳
大正8年 6月発行	日本全国商工人名録 南条郡武生町蓬萊 金物度量衡セメント カラヤ山本仁左衛門 銀行五十七銀行
大正10年10月発行	日本全国商工人名録 南条郡武生町 銅鐵金物商 山本直
大正11年10月発行	北陸商工業要録 度量衡金物セメント 蓬萊町 カラヤ 山本直
大正14年11月発行	大日本商工録 南条郡武生町蓬萊 金物鐵銅工具器械 カラヤ金物店 山本直
昭和2年 11月発行	東洋金属名鑑 南条郡武生町 金物商 山本仁左衛門
昭和4年 12月発行	東洋金属名鑑 南条郡武生町 金物商 山本仁左衛門
昭和12年 5月発行	日満金属業者名鑑 南条郡武生町 度量衡器 山本仁左衛門商店
昭和18年 3月発行	大衆人事録 武生町蓬萊 金物商 山本仁左衛門



国立国会図書館所蔵



国立国会図書館所蔵



カラヤグッズ

カラヤの業務やイベントを盛り上げてきたグッズ。どれも思い出がつまっています。



※裾の部分に角文字で山本仁左衛門と記されています。



KARAYA GALLERY

カラヤ ギャラリー④

広告

カラヤのイメージを発信してきた広告やコマーシャル。その時代時代でさまざまなメッセージを伝えてきました。

チラシ



昭和50年代 トータスの新装オープンチラシ

新聞広告



平成4年1月21日 CI導入による新聞一面広告



平成5年 リクルート向け新聞広告



平成4年 リクルート向け新聞広告



平成6年 リクルート向け新聞広告

TVCM



平成7年 130周年アニメ編



平成8年 企業編



平成27年 人の間に編



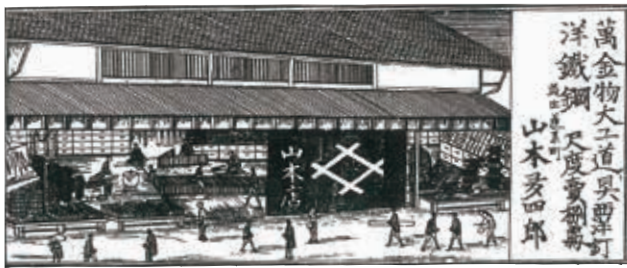
平成27年 新しい風編



創業家 山本家の 歴史

YAMAMOTO FAMILY HISTORY

カラヤの礎を築いた山本家の歴史



福井県下商工便覧(明治20年)より

カラヤの歴史をたどること、それは創業家である山本家のルーツをたどることでもあります。平成7年(1995)にカラヤグループで発刊した「カラヤ株式会社の起源」では、「当家は通称を「カラヤ」と称し、其名称の由来は泉州堺より身を起こし今の韓国中国の貿易品(唐物)を扱ったところから唐屋と言ひ又農機具鋤柄の製造より柄屋とも言われた。(中略)亦、其の歴史は詳らかではない。推定七百年前に遡ると言われ遠く正応永仁(1280～1295)の頃と伝えられている」とあり、その歴史の古さをうかがい知ることができます。

カラヤの歴史

今から30年前の創業120周年当時、先代の山本仁左衛門(第24代)は、次のように挨拶しております。
[昭和61年9月ユアーズホテルフクイにて](抜粋)

さて創業120年を迎えることになりましたが、その以前の経歴につきましては先代及び近親の人達からの聞き伝えによりますと、越前府中と呼ばれた時代「小袖屋」その後、「紙谷総左衛門」の屋号をもって生計を立てておった形跡がございます。ことに「小袖屋」のいわれにつきましては、「九十九茄子由来記」などの中に小袖屋の草屋があり、今日でも昔をしのぶ話題に上ることがあります。その後代々「カラヤ仁左衛門」の称号で武生の中心商店街蓬莱町におきまして、鎌の柄などを製作・販売の傍ら、家庭金物・刃物・鍋・鎌の商いを専業としていました。その頃、曾爺さんを「一鳳」といい、爺さんは「仁鳳」という雅号で呼ばれた風流人でした。大正



明治末～大正頃の蓬莱町。当時よりこの地にて「カラヤ仁左衛門」の称号で金物商を営んでいました

の初めごろ南画の大家、富岡鉄斎先生と親交があり、昵懇の間柄であり只今もその形見の作品が多少残っております。しかしながら家庭的には数代に渡り不運の連続で家庭は衰微に、経済的には困難を極めカラヤの運勢は大変な困窮の状況であったと親戚からよく話が出たものでございます。さて父の時代になりますと皆様の中にはご存知の方もおられるかと思いますが、大変に商才に長けておりましたので、家業は順調に繁盛致しました。ただし行き過ぎもあり昭和の始め頃の不景気と重なりましたので大変苦しい一時期もありました。

昭和10年頃になりますと戦時色が次第に濃くなってまいりました。経済界は活況を呈し、営業は活発化して全県下にお得意様が確保され、販売部門が確立いたし現在の地盤が出来たのであります。先祖以来受け継いだカラヤ商法という大きな信用を継承して、いくつかの優れた父からの遺訓を商売の基本としていました。遺産だけでは維持発展できない大切な暖簾を預かって今日に至っております。そして私の30年間の経営を振り返って感じますことは、祖先から引き継いだカラヤの看板は微かな善意の積み重ねが今日の大きな積徳となり、言葉では言い尽くせない尊い現実の商売が成り立っておりますのであります。また老舗といわれる店ほど、長い年月に知らず知らずに侵すマナーと高慢心が芽生え、新しい時代の適応に遅れ思わぬ支障をきたすことも度々あります。これをその都度、神よりの試練と受け止めて、幹部をはじめ170名の従業員が一丸となって、正しい聖道をもって奉仕報恩の心遣いで健全な社会の建設に貢献させて頂いております。幸いにも、古いお付き合いの仕入先その他取引先のよきご指導と、全県下にまたがる



第20代山本仁左衛門(山本一鳳)

優れた得意先の温かいごひいきを頂き、昨今の荷動きのにぶい商業界の現状に、全従業員は意欲を持って営業に携わっております。これひとえに皆様方のおかげがあればこそと、ここに心から感謝を申し上げます。

この挨拶からもわかるように、山本家は紆余曲折を経て、現在のカラヤグループを作り上げてきました。そんなカラヤの礎を築いた歴代の山本家当主についてご紹介いたします。

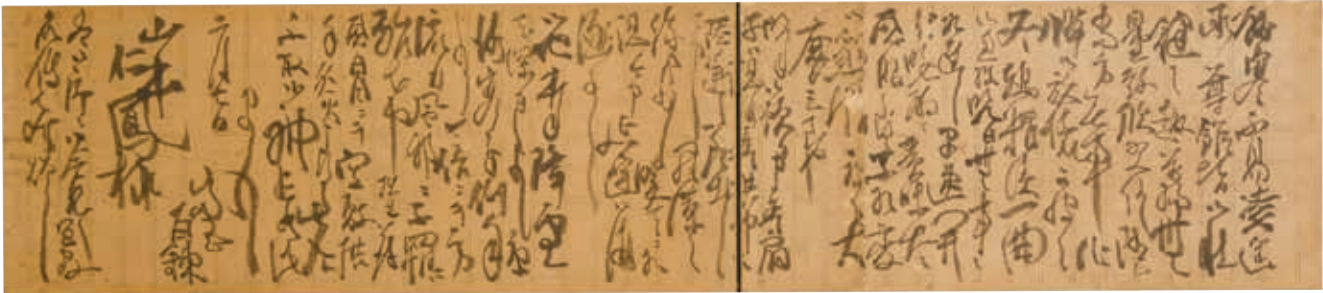
●第20代 (文化10年～明治2年1月15日)

第20代の一鳳は、14歳で山本家へ養子に入り養父の農具製造[鋤鋤柄]の家業を継ぎました。温厚篤実な人柄で、若いときから和漢の史書を好んでいたそうです。特に、司馬温公の家訓(次頁参照)に感じ、陰徳を積むことが子孫繁栄の基也と信じ、貧しい人々への施しに専念していました。嘉永4年(1851)、大火に遭い財産の殆どを消失し無一物となりましたが、刻苦精励して元に戻しました。慶応元年(1865)、一鳳の人徳と社会奉仕の行跡が藩公の認めるところとなり、保甲長[町村の長]を任されました。藩主であった本多公にも引見し、その功績から米穀1000俵を下賜されるも、同志と相談して社会奉仕として貧民に配ったそうです。しかし、栄枯盛衰は世の習い、経済不況などもあり、同志間でも異論が出て、一鳳はその債務を全部背負いました。資産も尽きて身体も不調となりました。明治2年(1869)1月15日、家督を後継者の仁鳳に託し、56歳の生涯を閉じましたが、終始「温公の家訓」を貫きました。

カラヤの礎を築いた 山本家の歴史



第21代山本仁左衛門(山本仁鳳)



山本仁鳳宛てに送られた書状。送り主として「百錬(富岡鉄斎のこと)」の名前が確認できます

●第21代 (嘉永2年4月15日～大正14年1月10日)

第21代の仁鳳は、父・杉本武兵衛、母・ゆうの二男として生まれ、後に山本家の養子となりました。幼いころから温厚篤実で利発、大器の相が見えたといひます。自身の代になると不惜身命当家の復興に専念しました。一時不況の煽りを受けて家業は振るわず、家庭用品、打刃物、農機具等を背負い近隣を隈なく行商に歩きました。

仁鳳も和漢の学びに通達し、父と同じく司馬温公の家訓を一生の座右としました。また、先代の遺志を尊び、ひたすら家業に専念し、商売の大要を悟りました。富岡鉄斎、他内外の文人とも交流し、その人格を研鑽したといひます。妻小さくもよく夫を扶け、五男七女の養育に専念しました。

【富岡鉄斎との交流】

仁鳳は、近代最後の文人画家と呼ばれる富岡鉄斎(天保7年～大正13年)と交流がありました。富岡鉄斎は京都生まれ、幼少時から学問を志し、国学や儒学、仏教等を学ぶとともに、書画や詩文を深く嗜みました。幕末は勤皇学者として国事に奔走しましたが、明治維新後は神官を拝命した一時期をのぞけば在野の文人として活動しました。別名で、鉄史(てっし)、鉄崖(てつがい)、百錬とも名乗っていました。

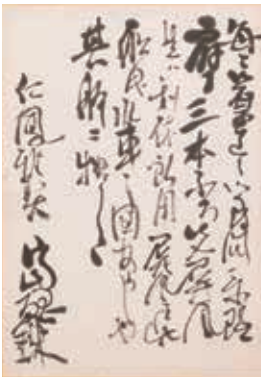
山本家には富岡鉄斎との書状が残されており、鉄斎と仁鳳との関係性を裏付ける貴重な資料となっています。相当昵懇の間柄であったと語り継がれています。

司馬温公の家訓

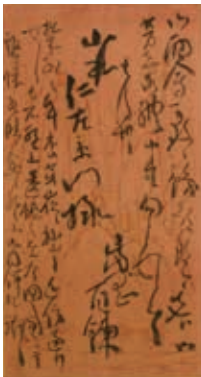
積金以遺子孫 子孫未必能守
積書以遺子孫 子孫未必能読
不如積陰徳於冥々之中 以為子孫長久之計
此先賢之格言 乃後人之龜鑑

〈口語訳〉

大金や資産をいくら多く残しても、子や孫たちは、これを上手に守り使うことは出来ないものである。
沢山の書き物を沢山書き残しても、子や孫たちは、これを読んでその知識を生かすことは出来ないものである。
世の人々のために自らが陰徳(表にでない徳)を積むことこそが、子孫が幸せに暮らす基となるのだ。



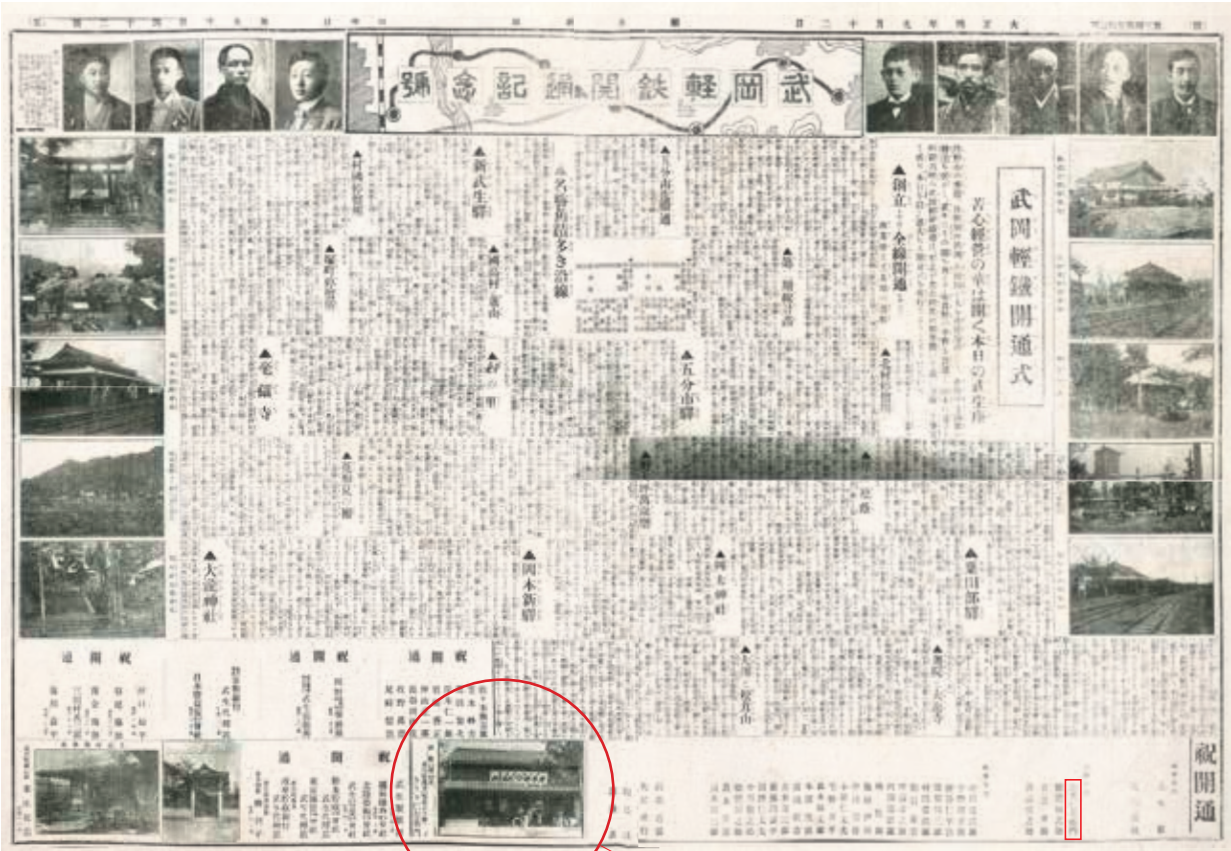
鉄斎の書状は数多く残っており、親交の深さが伺えます



【南条郡郡会議員に】

仁鳳は南条郡郡会議員でもあり、議員当時には山本仁鳳から山本仁左衛門へと襲名しています。大正4年(1915)9月12日の福井新聞に、「武岡軽鐵開通式」(ぶこうけいてつ)の記事が出ています。この鉄道は、旧武生から旧今立町の岡本地区(正式には、南条郡武生町～今立郡岡本村定友間)の開通を祝した

ものです。この新聞に開通祝いとして、議員の名前も掲載されていますが、南条郡の郡会議員(当時は県会議員、郡会議員、町・村会議員があった模様です)4名の名前のなかに、「山本仁左衛門」が載っています。このとき、カラヤも新築開業の広告を店舗の写真入りで出しています。(店舗名は、[度量衡 金物商]カラヤ仁左衛門です。※度量衡とは秤のことです)



大正4年9月12日の福井新聞より。「武岡軽鐵開通式」の開通祝いとして南条郡の郡会議員として山本仁左衛門の名前が掲載されています。
下段にはカラヤ仁左衛門の店舗新築開店の広告も掲載されています。(福井新聞社提供)



カラヤの礎を築いた 山本家の歴史



第23代山本仁左衛門(山本直)

●第22代（明治11年～昭和13年）

第22代の太四郎は、仁鳳の長男で、仁鳳より家督相続をして事業を引き継ぎましたが、うまくいきませんでした。太四郎の事業の痕跡は、明治時代において各種資料で伺い知ることができます。

太四郎は後に東京に分家しました。

●第23代（明治21年3月～昭和24年8月9日）

第23代の直は、仁鳳の次男で、商才に長けており、カラヤの歴史のなかでも中興の祖と言われる人物です。

「カラヤ商法」を記した寺田儀一氏（今庄木材株式会社社長・元福井県会副議長）の著述（右記参照）にもあるように、勤勉誠実で心が広く情け深い人物で、他の動きには関知せず、自分の独自の立場から事を行う主義で、商いで社会貢献をしようとしていました。自己を律して真面目に誠実に生きました。福井県の鉄鋼業界でも重鎮としても後世に功績を残し、「カラヤ」の商号を世間に広めました。まさしく、商才があったというべきでしょう。妻の寿江は河合家より嫁ぎ、夫の直を扶け二男三女をもうけました。

景気の波に左右され厳しい時代もあった中、直の時代の家業は卓越した経営手腕もあり、総じて順調に推移しました。明治・大正・昭和と激動の時代のカラヤを導き、その経営精神や経営ノウハウ（カラヤ商法）は、今日のカラヤ役職員に、企業風土として確実に引き継がれています。

寺田儀一述「正道院實踐日仁居士」より（※「正道院実
實踐日仁居士」は、山本直の法号）

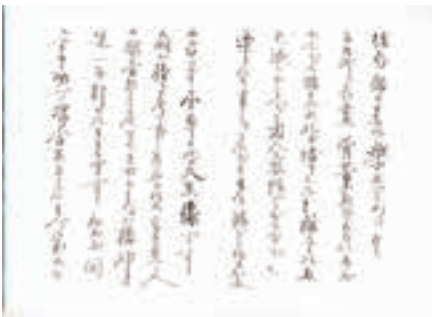
山本仁左衛門、性勤勉誠実、身ヲ持スルコト厳ニシテ、他ニ接シテハ寛仁ナリ。漢籍ヲ嗜ミ、一定不変ヲ主義トシ世ノ毀譽ニ超然トシ、商道ヲ以テ社会に貢献セントシテ、聊カノ不正ニモ関与セズ関与セズ、内、家ヲ治メ産ヲ成シ外、本縣鉄鋼業界ノ重鎮トシテ不朽ノ功績ヲ遺シ、遂ニ「カラヤ」ノ商号ヲ世ニ挙ゲタリ。蓋シ商傑ト謂ウベシ。妻、寿江ハ河合弥一郎ヨリ嫁シ、ヨク氏ノ業を扶ケ、マタニ男三女ヲ挙タリ。

【カラヤ商法について】

直について、その生き様を寺田儀一氏が、昭和30年（1955）12月に振り返り、書を残しています。「正道院實踐日仁居士」と題した書には、徳を重んじ正しく生き、凛とした商いを貫いてきた直の様子が伺えます。こうした姿勢はカラヤのDNAとして、今も引き継がれています。

寺田儀一述「正道院實踐日仁居士」より（現代訳）

結局儲けのない楽しみであった
又時折古書画 骨董を求められたが
少しでも儲けがあれば惜しげもなく離された
矢張りどこまでも商人気性で少しの間でも
楽しまれた事はそれだけ多く徳だと話された
カラヤの守り本尊は此の大黒像です
翁が種々の考え事をされるときは高い薰り入りの線香を立てられそのくゆるところに精神の統一を計られたそうです 私が伺



寺田儀一氏が残した「正道院實踐日仁居士」。カラヤ商法について触れています



いすると必ず線香を立てられまづ室内の不浄を去けられたのです 年と共に翁の人生感は正しく生きると云う気持ちが強く商売にも日常生活 社交的にもそれが強く働き時には近親者の方には了解出来ない位の事もあった様に私には感じられました なにより無駄をしないと云うモットーで 時間的にも生活の上にも出来るだけ無駄をなくしその受ける物の有難さを充分感づくべきであると申されたのです そこに風天の物に対する 感謝が生きてくるのです 社会的にもつくされた方でしたですが金物屋をやり度いと思い種々仕入れさせて戴き度くつくし参じましたと申しますと翁は結構です大いに頑張ってください できるだけ勉強させていただきましょう そこで私はカラヤさんは今日まで富藤千物屋さんとの御取引されておられますがその点も差支へはご座いませんかと申しましたところ翁は少しも迷惑も差支も有りません 富藤様も寺田様も私にはお客様です 旧新の別もなく取引にも等差は少しも御座居ません 寺田さんと取引した為に富藤さんがカラヤをお嫌いになられればそれは致し方御座いません 出る人を追はづ来る方を阻まずですし上、仕入と共に翁に近づく事がたびたび私には商売においても駆け引き骨とか種々技術的手段と方法のあることの如く常に考えをり せかれていただいたので翁に会ふ度毎にいろいろ御伺ひしたのですがカラヤはカラヤ独特と申しますか商いになににも深い姿細のあるわけもなくただカラヤ商法の一つとして一定不動です

【戦時中の地方問屋に選ばれる】

物資の販売統制が行われた戦時下、カラヤは、地方問屋4社のひとつに指定されました。（下記記事参照）

「福井金物商業組合80年のあゆみ」

（平成2年8月発行）より抜粋引用

昭和16年12月8日、米英に宣戦布告第2次世界大戦に突入した。統制や規制は戦時新体制なり、切符制度となり、切符を持っていないと買えないようになった。5月には企業整備命令が出された。（中略）釘、針金、鉄線、亜鉛鉄板は鉄鋼二次製品として軍需産業に必要なこともあってその調達を容易にするため取扱いの実績から、指定問屋、地方問屋、小売商の3種に分けられた。福井では指定問屋はなくて地方問屋には次の商店が指定された。

小池平三郎 大丁長治 内田太郎吉

山本仁左衛門

これらの地方問屋も共販会社を作り、統制経済による切符配給の機構に組み込まれていった。昭和16年福井県は福井、武生、敦賀の中小商工業業者で勤労報国隊を組織し軍事工場へ送り出した。（後略）



一番右端が山本直(当時51歳)。資料=「福井金物商業組合80年のあゆみ」より引用(昭和14年3月 交換会 改良亭にて)

カラヤの礎を築いた 山本家の歴史



山本家の家族写真(昭和42年頃)



第24代山本仁左衛門(山本與一郎)
(平成元年頃)

●第24代 (大正6年8月11日～平成24年2月10日)

第24代與一郎は、山本直の長男。齊藤家より嫁いだ妻は道子。三男一女を儲け、長男は現在の社長です。父の直が亡くなる前の、昭和24年(1949)6月21日に仁左衛門を襲名しました。(父直の生前であったため、直は仁左衛門より直に名前を戻しました。よって直の戸籍は、直→仁左衛門→直と変遷しています)。

【地域の活性化に尽力】

與一郎は地域の活性化にも積極的に取り組みました。その様子は、今から30年前に開催した120周年記念式典における武生商工会議所前田会頭の挨拶から伺い知ることができます。(抜粋)

江戸時代の末期からずっと武生は北陸における商業の府、商業の街、として非常に栄えてきたということを、先輩から譲り受けておるのでございます。京都、大阪の商人が荷物を武生におろして、そして府中におろして、そして福井へ小松へ大野へと商売をして歩くというようなことを聞いておったんです。したがってそれを下請けする卸問屋というのは武生に非常にたくさんでき、あらゆる業界にそういうのができた。また別の面では、夜の街が花の街としても、非常に賑わい、北陸有数の芸能の街として知られ、原因はそこにあるんだということ、また非常に京都、大阪の商人が武生市をなじんでくれたんだ。だから商人にとっても由緒のある古い街なんだというようなことを聞いておるのでございます。(中略)

このカラヤさんの会長さん(＝第24代仁左衛門)は、武生に三極構想という商店街発展のための構想



を、中央の役人や学者に作ってもらいました。三極構想のその一極が武生の駅前再開発、第二極が今カラヤさんが中心になって働いておられる蓬莱町の中央商店街でございます。第3極が郊外型ショッピングセンターということになっておりますが、そういう意味でも私はこの3・4年カラヤさんに非常にお世話になっています。

武生の蓬莱町は昔から武生市の一番の中心センター街で、商工の中心でしたが最近は何古鳥が鳴くような寂しさになっています。これをもう一度昔に返して100年200年の伝統を持った府中の街が、商業として栄えてきた中心が蓬莱町だ、だから蓬莱町の中央商店街としてもういっぺんやるんだとカラヤさんは、非常に熱意を込めておられます。ですから、私どももなんとしてでもやっていただきたいと、目下奮闘中の状態です。武生市の商業発展のリーダーシップを取る役として、今カラヤさんの会長さんが非常に努力中であるということをこの席をお借りしてお披露目しておく次第でございます。(後略)

蓬莱町再開発でもリーダーシップを取って陣頭指揮を執ってきた様子は、今も残っている関係資料で伺えます。武生の再生、地域貢献を強く意識した行動からでした。

【顔を知られていない社長！？】

與一郎は、派手な生活を好まず社業や社員教育に力を注いでおり、外部のお付き合いは、部下に任せていました。そのためか、カラヤの社長の顔は、世間ではあまり知られていませんでした。

武生市蓬莱町の東店でのエピソードですが、第24代が店番をしていた際、お客さまが来られ、「社長さんはいますか?」と聞いたところ、当の本人(当時社長)自ら、「社長はいません。今外出しています」と答えたそうです。聞いたお客さんも「ああ、そうですか」と帰ったのだとか。

カラヤという名前はよく知られていたものの、当時の山本仁左衛門という社長の顔はあまり知られていなかったようです。当時から部下を信用して権限移譲をしていた企業文化も、今に引き継がれています。



米寿のお祝い時の写真、孫一同と共に

カラヤの礎を築いた 山本家の歴史



てんしゃく おさ じんしゃく したが
天爵を修めて人爵これに従う 孟子による最高道德の実行と意義を示した格言。モラロジーでは、最高道德を実行して品性を高めることが人生の根本であり、その結果として真の安心、平和、幸福が得られることを教えています。この額は、カラヤ株式会社本社講堂に掲げられています

【山本家とモラロジー】

モラロジーとは、モラル（道德）とロジー（学問）を組み合わせた新しい学問分野の名称で、（公財）モラロジー研究所の創設者、廣池千九郎によって提唱されました。モラロジー研究所は、モラロジー（道德科学）及び倫理道德の研究とこれに基づく社会教育を推進する研究教育団体で、大正15年（1926）の創立以来、一貫して人間性・道德性を高める研究・教育・出版事業を展開しています。

第23代、第24代がこのモラロジーに関わり、モラロジーの考え方が企業経営には必要不可欠な要素と捉え、その後のカラヤ株式会社の基本理念とし、モラロジー精神を社員教育に取り入れて経営に活かしています。

昨今、企業統治やコンプライアンス（法令遵守）の重要性が問われていますが、個人も企業も根本的な道德心は極めて重要であるとの思いを持っています。

これまで当社を支えてきたベースには、「人なくして企業なし」の脈々としたポリシーがあります。人こそが財産で「人財」であり、品格ある人の集合体が企業を支える生命線であると考えています。人づくりの社員教育は企業永続性の観点からもとても大切であると考え、全社員に外部研修などを受講させています。「道德心がないと家が寂れる。一生懸命やっても栄えない」と言われますが、これは個人も企業も当てはまると思っています。正直な行動は、いつの時代にも決して揺らぎません。日々感謝の心を忘れずに相手を思い遣り、当たり前のことを当たり前のように日々実践していくことがとても重要だと考えています。こうした気持ちを役職員が日々保ちながら成長を遂げ、引き続き一企業市民としての社会的責任も果たしていきたいとの思いを持っています。

コラム① 本隆寺の七條と表彰状



山本家の歴史を示す証の一つに、本隆寺に寄贈した七條（袈裟）のエピソードが伝えられています。本隆寺は、京都西陣にある法華宗（真門流）の総本山。山本家は文亀2年（1502）に、本隆寺に七條を寄贈したとの記録が、以下の通り残っています。

今を距る約四百五十年前、我が御開祖日真上人の御教化に預りて本化の大信者となり、常に日真上人を御援助致し、終に本隆寺を総本山とせる一門を開き、法運を盛んならしめた大檀越の一人に山本仁左衛門という富豪があった。その道興と称する法号は、親しく日真上人の授与せられた

所のものである。其の子孫代々福井県武生町に住し祖先の遺風は今も尚厳然として伝わっている。近頃本山当局の司書員等少々必要遭って本山の書庫に蔵する古文書を調べるうち日真上人御着用の七條の裏に寄付者の氏名が記されているのに注意はひかされた。其の寄付者は法運・妙浄の母子であつて、法運は道興の曹子浄運の妻女である。今回種々協議の上更にその御七條の新品を謹製して、永久にその面影を偲ばせる方策に供した。もとより其の寄付者は山本仁左衛門の当主である。「源遠ければ流長し」と言うべきでありましょう。

昭和巳卯の四月（※）

総本山 本隆寺

※昭和14年（1939）4月

この記述にある新品を謹製した寄付者・山本仁左衛門の当主は第23代のことであり、昭和14年、山本家は本隆寺よりそのことを賞賛する表彰状をいただいています。この表彰状は本社の応接室に掲げています。

コラム② 天下の名品「付藻茄子」と山本家

茶道具の名品として知られる「付藻茄子（つくもなす）」。古くは足利義満が所有した唐物茶入で、朝倉宗滴、松永久秀、織田信長、豊臣秀吉ら、名だたる権力者たちの手を渡り歩きました。信長は付藻茄子をことのほか気に入り、かの本能寺の変のときも持参して

いたと伝えられています。そんな逸話を持つ付藻茄子ですが、戦国時代、山本家の先祖が所有していたという記録が残っています。

昭和62年（1987）8月28日付けの福井新聞には、このことを題材にしたコラムが掲載されています。

福井県武生町に伝わる逸話によれば、戦国時代、山本家の先祖が所有していたという記録が残っています。このことを題材にしたコラムが掲載されています。



川中まささんが語る カラヤと山本家

第23代仁左衛門の次女で、現社長の伯母にあたる川中まささん。大正3年(1914)に生まれたまささんは、大正から戦前、戦中、そして高度成長期を遂げた戦後の昭和期にかけて、カラヤと山本家の歩みを見つめ続けてきました。そんなまささんの思い出話を中心に、山本家とカラヤのさまざまなエピソードをお話いただきました。



川中まささん

大正3年7月28生まれ。第23代仁左衛門(直)の次女。第24代・山本仁左衛門(興一郎)の姉で、現社長(第25代)の伯母にあたる

浜のおばちゃんに鍋釜を販売

カラヤは金物屋の前は紙屋だったんじゃないでしょうか。昔、本興寺に笏谷石の古いお墓があり、墓石に「紙屋仁左衛門」って彫ってあったのを覚えています。

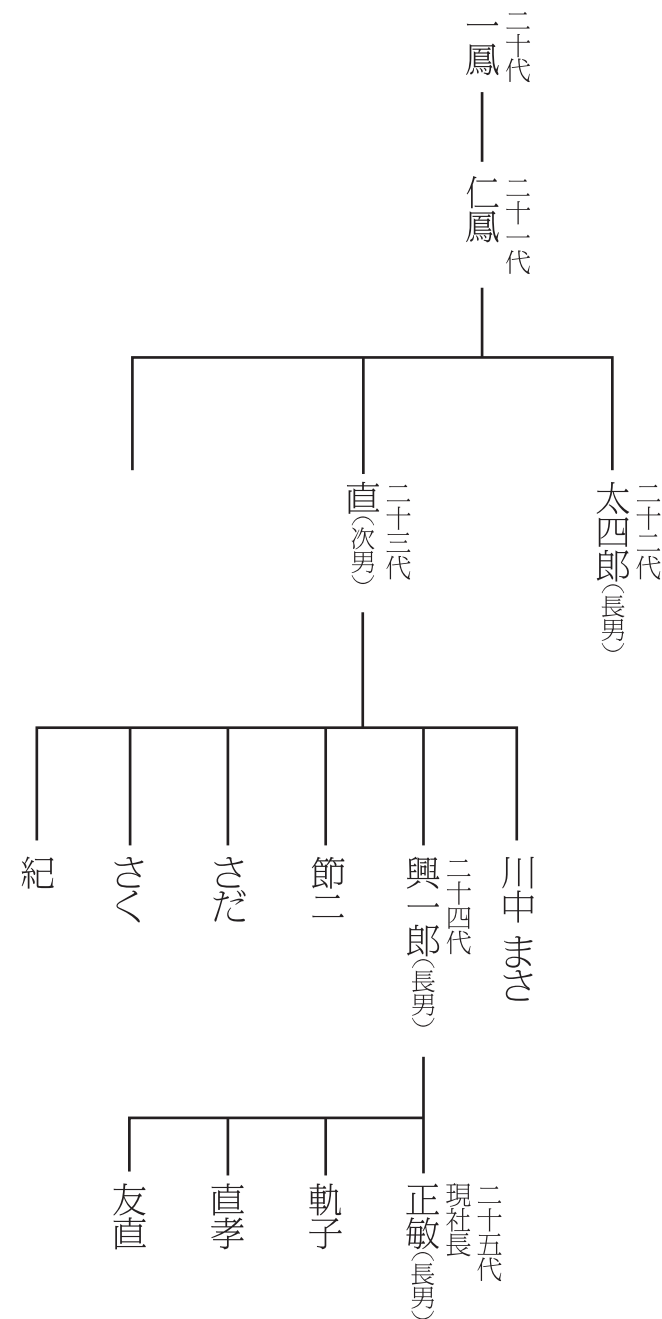
昔は、鍬の柄を作っている家を“カラヤさん”って言ったんですが、カラヤの名前は、それが元じゃないかと思っています。柄を作って売るのがたくさんあって、それらはみんなカラヤさんでしたからね。

私が子どもの頃のカラヤは、今のように鋼材中心ではなく金物が主でした。この当時の金物は、家庭用の鍋釜が中心でした。店の前が魚問屋でしたから、魚を持ってきた浜のおばちゃんらがしょっちゅう買いに来てましたね。浜のおばちゃんたちが4、5人来ると店が鳴りました、というのは、浜のおばちゃんは鋳物の鍋を買って行って、石でこするんですよ。浜の人は洗うのにタワシでなくて石を使っていたんです。当時は松岡(現永平寺町)の鋳物の質が良く、喜ばれました。その頃は朝になると、鍋・釜・バケツなんかを店の前に出して、夜になると片付けたり。そんな感じで商売していました。

法事や葬式の引き出物にもお鍋を付けることが多かったからよく売れましたよ。鍋釜は大きいから見栄えがするんです。包装の仕方も練習しましたね。

刃物鋼材から建築鋼材へ

鋼材は最初は、建築というより刃物屋さん向けに鋼を売っていました。今でも武生特殊鋼材さんなど刃物



明治後期の武生市蓬萊町の一角(2枚組写真・小川利男氏提供)。右側の写真の左から3番目がカラヤの店舗です

現在の越前市蓬萊町の一角。明治当時とはほぼ同じロケーションが、現在ではこのような町並みとなっています

向けの鋼材も扱っていますけどね。

鋼材が建築資材として出だしたのは、トタン板とかが始まりでね。屋根を葺くのに瓦よりトタンが流行ったのが始まりですね。それからだんだん建物に鉄骨やコンクリート、鉄筋を使うようになって鋼材が出るようになり、丸棒、型钢、鋼板に変わっていったんです。

当時は東店と西店がありましてね。西店の方が古くて、私は西店に住んでいました。東店は木煉瓦の床で倉庫になっていました。広小路石屋の前に鉄材を並べるために、木煉瓦を敷いたんです。木煉瓦というのは丸太を切ったもので、湿気防止になるんです。鉄は錆びますからね。

多賀谷さんって病院があった場所—今は駐車場になっているんですけど、そこが鋼材部でした。広がったですね。鋼材がざーっと置いてあったのを覚えています。

仁鳳の思い出 直の思い出

おじいさん(仁鳳・第21代)は、静かな人でしたね。毎日、本を読んでいるところしか見たことがありません。毎日お寺に参っていました。おじいさんはタンス屋の息子で、もともとはそういう仕事をしていたんじゃないかと思うんです。

父(直・第23代)は、大阪の津田勝五郎商店(津田鋼材)に修行に行き、鋼材の基礎を習って武生に戻り刃物屋相手に鉄材を売り始めました。それが今のカラヤの始まりです。父は二男でしたが、それまでの金物屋から鋼材屋の方へと商売を切り替えたんです。

父はあまり家庭のことには関与しない仕事一本の人でした。母も店のことで忙しかったですから、私は小さくさんというおばあちゃんに育てられたようなものです。おばあちゃんは福井の士族の娘だったそうで、気位が高かったけど、頭のいいよくできたおばあちゃんでした。女学校2年生でおばあちゃんが亡くなるまでは一緒に暮らしていました。

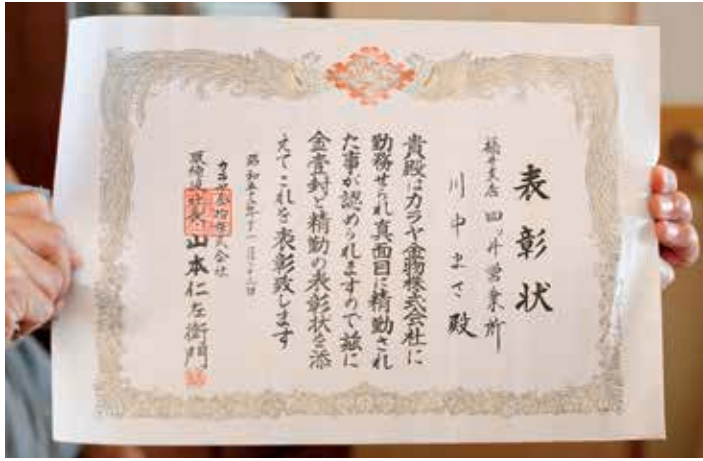
私が子どもの頃は、従業員も丁稚さんのような形で住み込みで働いていました。だから、賄いをみんなで食べていましたね。朝はたくわん。昼はお味噌汁。晩はお煮しめ。魚屋さんもよく魚を売りにきていましたね。魚屋さんから父の酒の肴をよく買っていました。

昔のお金事情

私の子供時分は、一銭であめ玉が3つ買えましたから、みんな一銭を握りしめて買い物に行っていましたね。私は現金は持たせてもらえなくて、買い物帳を持って行くよう言われていました。ようはツケですね。毎日のように月尾のおせんべい屋さんとか、魚問屋の前のお菓子の卸屋さんに弟たちのおやつを買いに行っていました。

昔は今と違ってレジがないから、家の者が誰か店にいないとお金の受け渡しができなかったんです。お寺にお賽銭を持って行くのにも、引き出しの付いた小さい木箱を下げて行きました。ご飯食べる時も持っていったりしていました。

昔は、母がよくお客さんに「まけられん、まけん。まけられん」と言っていたのを覚えていますね。今のよう値段が貼ってない時代で値切るのが当たり前で



今もまささんが大切に保管している永年勤続の表彰状

したから、お客さんが「まけろ」と言ってくるんですが、母はまけずに売っていました。逆に言うと値切られてもいいように利益を上乗せした値段で売っていなかったということです。それからしばらくして正札をつけて売ようになったと記憶しています。

昭和33年から昭和34年(1958～1959)頃に息子がカラヤに入社しているんですが、当時の基本給が3,000円でした。残業代が700～800円で、それが1ヶ月のお小遣いになっていたようです。当時の物価は米1升が100円、10円でアイスクャンデーが1本買えるといった時代の話です。

四ツ井の水道部門へ

私は武生の女学校を卒業した後、東京に出て、2年間東京女子専門学校の家政専修科に行っていました。学校の先生になる気はなかったですし、当時は良妻賢母教育が主流でしたから裁縫などを中心に勉強しました。今でもパッチワークは得意です。

カラヤは福井市に総本店を出していたときもありました。昭和20年頃でしょうか、今でいう片町の近くです。森八大名閣さんの裏あたりです。武生は第24代(興一郎)に任せて、その弟の節二さんに福井の店を譲ったんです。私はそこのお手伝いをさせてもらっていました。当時は真名川ダムの建設などもあり、かなりの鋼材を売って羽振りが良かったそうなんですが、いろいろあって最後は倒産してしまいました。

それで行くところがなくなって、どうしようと思っていたら、福井市の四ツ井に水道部門の営業所を作るという話が出まして。そこに来てくれないかと声をか

けてもらったんです。四ツ井の水道部門では、経理などをさせていただきました。

その頃は結婚して浅水に住んでいましたから、車で通いました。浅水駅まで歩いて、福井駅前から四ツ井まで歩きました。朝暗いうちから始発かその次の車で行って、夜7時すぎぐらいに帰らないといけませんでしたから結構大変でした。定年で退職する65歳の春(昭和55年)まで、毎日一日1時間は歩きました。だから私は今でも健康なんです。

長く勤めたので永年勤続の表彰もしてもらいました。皆勤の表彰状もいただきました。

興一郎の思い出

第24代仁左衛門は私の弟にあたります。仁左衛門に改名する前は興一郎という名前でしたので、よういっちゃんと呼んでいました。人付き合いはあまり得意ではなかったけど、ほがらかな性格でね。社長って言われるのを嫌がって表にはあまりでなかったから、社長だったけど顔を知らないお客さんも多かったみたいです。

興一郎は、表に出るタイプではなかったけれど、人を見る目には長けていました。福井・武生・敦賀に支店長を代表権付きで任せたのもその一例ですね。自分は贅沢はしないけれど人を育てること、人材育成にはお金を惜しみませんでした。

今のカラヤは父の直が金物から鋼材の方へと舵を切り、新しい分野を開拓、その後、興一郎がしっかり地固めをしたといえるんじゃないでしょうか。

人とつながり続けて150年

150TH ANNIVERSARY
カラヤグループ

カラヤの歴史

第1章／

創業～戦前

第1章／創業～戦前

カラヤのはじまり



明治後期のカラヤ仁左衛門の店舗

幕末頃に金物商に



福井県下商工便覧(明治20年)より

洋式製鉄法により鉄の需要が急増

カラヤ株式会社の本社がある越前市は、奈良時代に国府が置かれ、その後の時代も商いの盛んなまちとして発展してきたという歴史を持っています。そうした越前市で戦国末期までルーツをさかのぼることができる商家が、創業家・山本仁左衛門家です。長い歴史の間には、呉服、油、紙、唐物(からもの)など、取扱う商材が何度か変わったのではないかと推察されます。また、“カラヤ”の名の由来は、中国からの貿易品、いわゆる唐物を商う唐屋(からや)とも、また、鋤や鍬の柄(え)を製造販売したことから柄屋(からや)となったともいわれています。

現在に繋がる金物商となったのは、幕末頃のこと。南条郡武生町蓬萊にて金物商を開業したと伝えられています。明治20年(1887)に発行された『福井県下商工便覧』に個人創業時代の当社が掲載されており、そこには、萬(よろず)金物、大工道具、西洋釘、洋鐵鋼の文字が見られ、広く鉄製品を扱う商店であったことがわかります。

先代および近親の人々からの聞き伝えによりますと、越前府中と呼ばれた時代には「小袖屋」、その後、「紙谷総左衛門」の屋号をもって生計を立てていたようです。

その後代々「カラヤ仁左衛門」の称号で武生の中心商店街蓬萊町において、鎌の柄などを製作・販売の傍ら、家庭金物・刃物・鍋・鎌の商いを専業としていました。越前武生は古くから打刃物の産地として知られており、刃物や鎌などを主要に取り扱っていたことから、地域の地場産業とも密接なつながりがあったことが推察できます。

福井金物商組合が発行した「80年のあゆみ」によると、江戸時代には金物屋という名称はなく、「金屋」が灰吹銀や銅、和鉄を売買していたとされています。鍛冶屋は、刀鍛冶、武具鍛冶、刃物鍛冶、野鍛冶などいくつかに分かれており、襖の引手や取っ手、箆筥、長持、仏壇などの金具を作る「鋳屋」が存在していました。鉄の鍋、釜類はまだまだ高価で、土鍋が主流でした。よって、種々の金物を売る金物屋は存在せず、それぞれの諸職ごとに製造・販売が行われていたといえます。

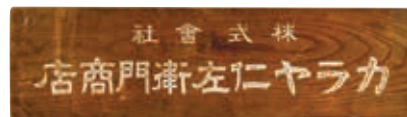
大正時代に新築開業



大正時代のカラヤ仁左衛門の店舗



大正4年9月12日付けの福井新聞に掲載されたカラヤ仁左衛門の新築開業広告



戦時下で金物の統制開始

明治時代に入ると洋式製鉄法が本格的に導入され、大量の鋼鉄を安価に作ることができるようになりました。これに伴い、鉄製品の需要も増え、鉄製品を取り扱う店も増えていきました。

カラヤはまさにこの時代の流れに沿い、明治期に金物商として、各種金物、大工道具、西洋釘、洋鐵鋼などを主力商品とした商いを展開していきました。

日露戦争[明治37年から38年(1904～1905)]により、日本は飛躍的に経済成長を遂げましたが、明治40年代に入ると戦後不況に見舞われます。

大正3年(1914)には第一次世界大戦が勃発、再び戦争景気を招くなど、混迷の時代を迎えました。

武生では、大正3年から大正4年(1914～1915)に武岡軽便鉄道が開業。大正4年9月12日の福井新聞には開業を記念した「武岡軽鐵開通式」(ぶこうけいてつ)の記事が見開きで掲載されています。この記事は、武岡軽便鉄道が、南条郡武生町から今立郡岡本村定友までの開通を祝したものです。

新聞には開通祝いとして、議員の名前も掲載されていますが、南条郡の郡会議員(当時は県会議員、郡会議員、町・村会議員があった模様)4名のなかには、「山本仁左衛門」の名を見ることができます。このとき、カラヤも新築開業の広告を店舗の写真入りで出しています。店舗名は、[度量衡 金物商い]カラヤ仁左衛門となっています。度量衡とは、計量または計測の古い呼び方であり、ものさしや秤、ますなどの計量器具を指す言葉でもあります。このことから、当時、金物と並び、各種計量器具がカラヤの主要取り扱い商品であったことが伺えます。

大正7年(1918)、第一次世界大戦が終結すると、日本は戦争好況から一転して不況へと陥ります。さらに大正4年に発生した関東大震災の処理のための震災手形が不良債権化し、銀行経営を圧迫したことが重なり、昭和2年(1927)には、金融恐慌が起こりました。中小銀行を中心として取り付け騒ぎが発生し、この不況の影響は昭和12年から13年(1937～1938)頃まで続きました。

昭和6年(1931)には満州事変が勃発し、日本は再び戦争時代へと突入します。「武生市史概説篇「抜粋」近代」(昭和51年12月発行)によると、カラヤと関係した金物商の同業者は昭和6年当時32軒あったと記されており、生存競争も厳しかったと推察されます。

昭和8年(1933)には陸軍特別大演習が福井県下を中心に行われました。天皇陛下の行幸、皇族のお成り、首相・閣僚、

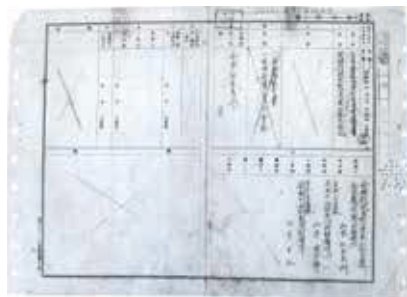
第1章／創業～戦前



カラヤ金物店鉄部

法人組織として スタート

戦時下で 営業基盤を確立



昭和15年6月14日設立合名会社山本仁左衛門商店の
商業登記簿謄本

外国武官や旧藩主らが多数来福されました。福井市内に設けられた指定場所での見物客だけでも15万人(当時の福井県人口62万人)にのぼる大きな出来事でした。陸軍特別演習の実施に伴い、道路や鉄道も整備され、県下の近代化にもつながりました。

昭和10年頃になると戦時色が次第に濃くなってきました。経済界は活況を呈し、カラヤは営業が活発化して全県下にお得意様が確保され、販売部門が確立。現在の地盤ができました。

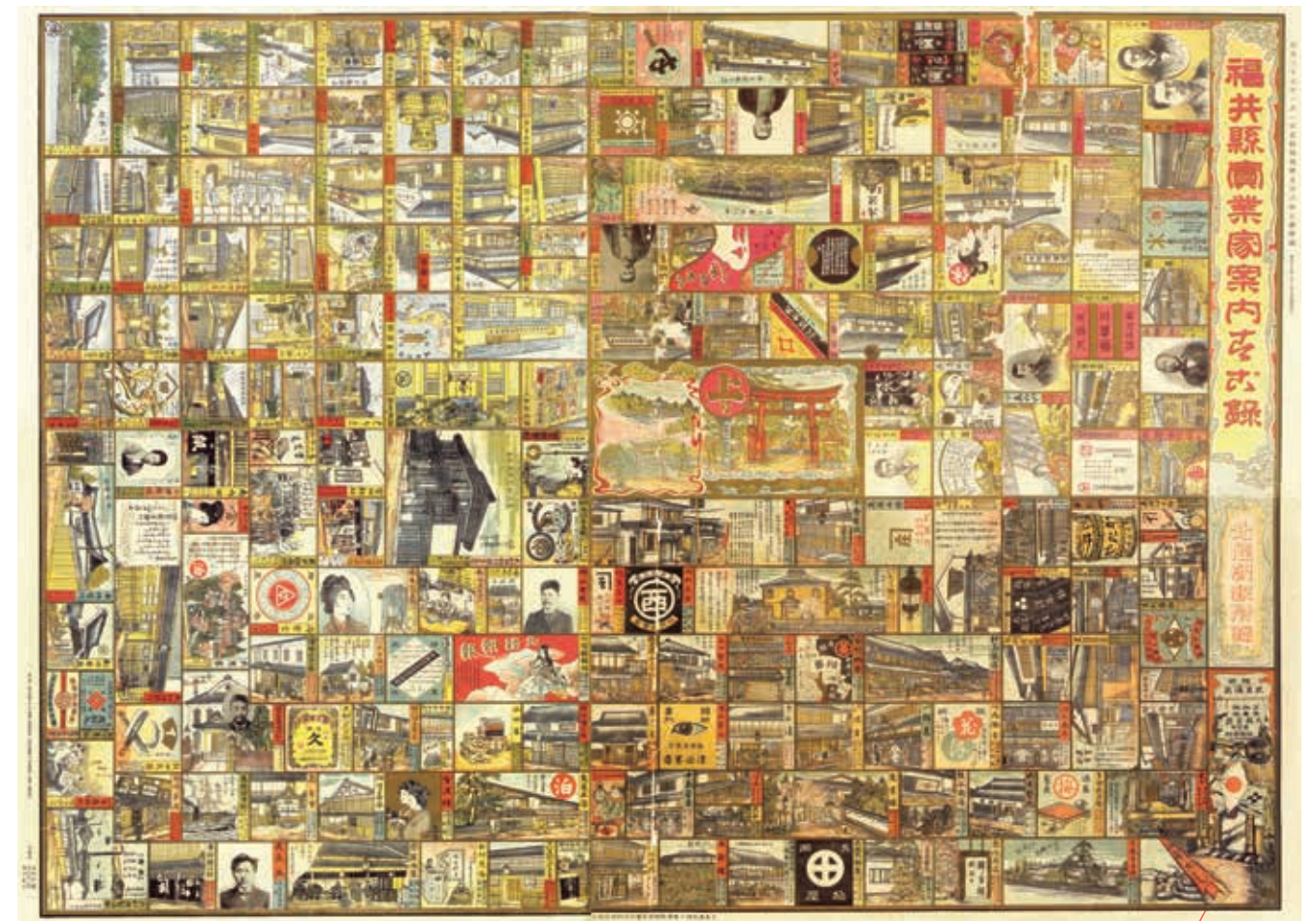
昭和12年(1937)に日中戦争が始まると、世相はますます戦時色が強まっていきます。昭和15年(1940)には、贅沢品の製造・加工・販売を禁止する奢侈品等製造販売制限規則(7・7禁令)が施行されます。この頃には、金物の物品も軍需品や軍需生産用以外は生産が禁止され始めました。

カラヤが法人組織となったのは、そんな戦前の混迷期のまっただ中でした。昭和15年(1940)6月14日、「合名会社山本仁左衛門商店」を設立、資本金は5万円でした。当時の住所は南条郡武生町蓬萊59番地。旧カラヤ金物の西店のあった場所です。

翌年の昭和16年(1941)には第二次世界大戦が勃発、統制や規制はより一層強化されるようになりました。昭和17年(1942)には金物販売は企業許可令による知事の許可に基づき、営業許可をもらうことが必須とされ、事業や取扱物資についても全部書き上げて許可を受けなければなりませんでした。

釘、針金、鉄線、亜鉛鉄板は、鉄鋼二次製品として軍需産業に必要なこともあり、その調達を容易にするため、取扱の実績から指定問屋、地方問屋、小売商の3種に分けられました。福井では指定問屋はなく、地方問屋には4社が指定され、そのうちの1社に山本仁左衛門の名前が記録されています。鉄が不足していた時代、カラヤはこれまでの実績から地方問屋として鉄を販売することが認められていたのです。

コラム③ 福井県実業家案内すご録



明治37年(1904)1月1日北陸朝報附録「福井県実業家案内すご録」 福井県文書館提供(原寸195cm×270cm)

明治時代に福井県内で発行されていた「北陸朝報」の明治37年(1904)元日の附録として「福井県実業家案内すご録」があります。福井県下の商店や会社など203ヶ所を絵入りで紹介しています。

この時期福井県は、嶺北地方を中心に輸出向け羽二重織物の全国有数の産地であったようです。このすご録は、こうした絹織物関連の会社を含め、当時の有力実業家の様子がわかる貴重な資料とされています。

その振り出しにはカラヤが『越前武生蓬萊 金物類度量衡大販売所カラヤ仁左衛門』と大きく掲載されています。北陸朝報がその前年の11月13日に掲載した予告記事によると、広告掲載料は2寸(約6センチ)四方で10円、デザインは希望に応じたようですが、米10キロが1円22銭程の時代に、その掲載料は安くはなかったと思われ、当時の勢いをうかがい知ることができます。



右下の振り出し部分。カラヤの広告が掲載されています

コラム④ 引き札



福井県立歴史博物館所蔵品(原寸=37.5cm×51cm)

「引き札」とは、江戸時代後期から明治・大正にかけて、商店が開店や売り出しを宣伝するために顧客に配った広告用の紙媒体で、現在のチラシに相当します。

カラヤの引き札も、福井県立歴史博物館に残っており、明治35年(1902)7月10日、大阪で印刷したと記されています。おめでたい七福神を添えて、「度量衡金物商 武生町蓬萊 カラヤ山本仁左衛門」を広告しています。

コラム⑤ カラヤと電話



山本家の倉庫に今も残っている古い電話機

電話機が日本に輸入されたのは明治9年(1876)、官公庁や警察関係機関を中心に事務用に利用されました。福井県においても、明治17年(1884)に県庁・福井警察署間の警察電話、明治22年(1889)に福井郵便電信局と勝山郵便電信局間に電報送受用の電話線が架設され、明治26年(1893)には敦賀の大和田銀行本店と金ヶ崎出張所の間に私設電話も架設されました。(『北陸の電信電話』、『敦賀郡誌』より)

福井県では明治36年(1903)7月、福井電話局で最初の一般公衆用の電話交換業務が開始され、福井局は前年10月に、一般の電話加入申込みの受付を始めました。武生郵便局で電話交換業務が開始となったのは、福井電話局に次いで県下で2番目となる明治41年(1908)です。第1回加入者は63名で、カラヤはこの第1回加入者に名を連ねていました。当時の番号「59」は、カラヤ金物西店があった武生町蓬萊59番地にちなんだものです。

0778-22-0059はカラヤ中央営業所ニューライフ(家庭用品小売部門)の番号として現在も使われています。

人とつながり続けて150年
150TH
ANNIVERSARY
カラヤグループ
カラヤの歴史

第2章／

戦後昭和期

第2章／戦後昭和期

「からや鋼機株式会社」設立



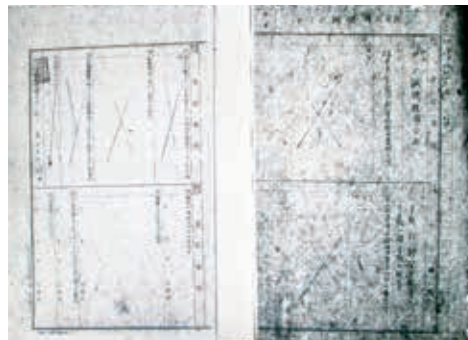
からや鋼機株式会社の設立時議事録等
(昭和31年5月)

武生に移転、 「カラヤ金物株式会社」 に商号変更

「合名会社カラヤ山本仁左衛門商店」は、昭和25年(1950)1月9日、「合名会社カラヤ金物本店」に商号変更しました。この会社は現在も「株式会社カラヤ金物本店」(平成27年3月組織変更)として、存続しています(カラヤ株式会社の持株会社の存在です)。

昭和31年(1956)5月2日、合名会社カラヤ金物本店から、福井部門が分離独立する形で「からや鋼機株式会社」が設立されました。これが現在のカラヤ株式会社の前身となります。からや鋼機株式会社は、福井銀行武生支店で払込資本金の保管金証明がなされたと同時に法人設立となっています。本店の所在地は、当初福井市宝永でした。

昭和35年(1960)11月には、からや鋼機株式会社の敦賀営業所を開設し、活動拠点を広げていきました。



からや鋼機株式会社の
設立時商業登記簿謄本

昭和38年(1963)7月3日、本店を武生市(現越前市)に移転し、商号をからや鋼機株式会社より、「カラヤ金物株式会社」に変更しました。この時の本店所在地は、合名会社カラヤ金物本店と同じ、武生市蓬萊町54番地でした。

商号変更と同時に、福井営業所・敦賀営業所を支店に昇格。新たに武生西営業所を開設し、営業拠点を拡大強化しました。

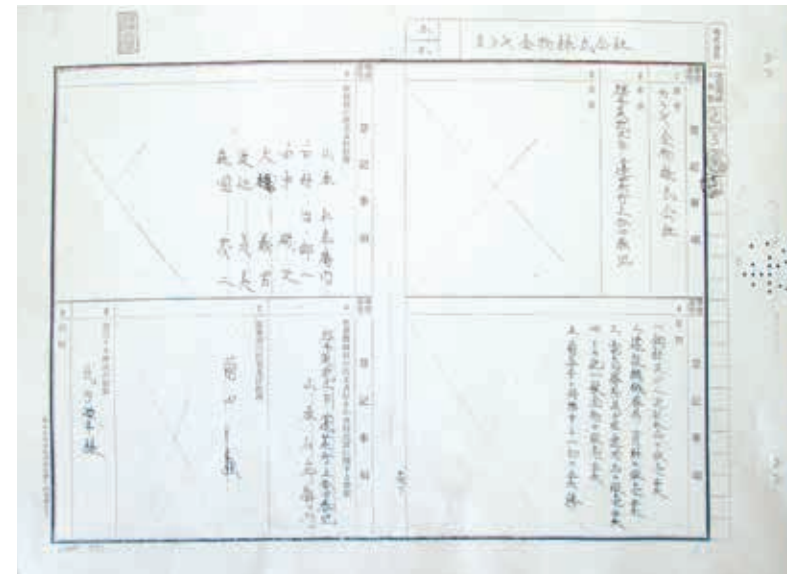
第23代仁左衛門の次女・川中まささんによると、昭和30年代頃には、「鍋や釜などの金物が良く売れた」と言います。戦後、少しずつ豊かになっていった時代、法事の引き出物に見栄えがするとして、鍋を贈ることが増えてきたのです。そのため、金物を取り扱っているカラヤにも注文が多かったといえます。「私も贈答用の包み方を仕込まれました」と、まささんは当時を振り返ります。

水道機材部門の シェア確立

昭和40年代に入ると、水道機材系の拠点づくりも進められました。昭和43年(1968)3月には武生小松営業所を、昭和45年(1970)5月には福井市に四ツ井営業所を開設。さらに同年10月には小浜市湯岡に小浜営業所を、11月には敦賀支店(敦賀市津内1丁目)を津内営業所(水道機材係)として、敦賀市津内町2丁目に新たに敦賀支店を開設しています。

その背景には、福井市で急速に上下水道の整備が進められたことが挙げられます。

福井県史には当時の上下水道の整備状況が以下のように記述されています。



本店を福井より武生市(現越前市)に移し、
からや鋼機をカラヤ金物に商号変更した当時の商業登記簿謄本

福井坂井地区広域市町村圏は昭和45年3月に「広域市町村圏計画」、昭和56年3月に「新広域市町村圏計画」、昭和61年3月に「第三次広域市町村圏計画」を設定。広域市町村圏計画」では、基本計画として交通・通信(一、二級市町村道・都市計画街路・広域林道・農免道路)、防災(消防・救急)、住宅および生活環境施設(上水道・下水道、し尿処理・ごみ処理・葬祭施設等)、保健衛生、社会福祉、教育文化、農林漁業、工業開発、観光レクリエーション、行政の合理化(広域情報処理センター等)などの項目による立案を行った。「広域市町村圏計画」の総額525億円のなかで、交通・通信が51.2%、生活環境施設が34.7%で、この二つで85.9%を占める。とくに道路、上水道(全体13.2%)、公共下水道(全体の18.5%)に重点をおいている。

これらの事業の進展状況を「一次計画」「二次計画」「三次



新年会集合写真。現在はカラヤ本社となっている越前市中央町の社長自宅前での集合写真。
社長宅での年賀式のあとの一コマと思われます

第2章／戦後～昭和



非常用貯水装置(ダグタイル管)昭和57年(1982)
敷設の福井市順化小学校のもの(福井市初)



建設当初(昭和45年)の福井水道機材営業所

計画」の現状報告をもとにみてみよう。(中略)道路については、「一次計画」の期間中に拡幅改良率や舗装率が大幅に上昇し、整備が進んだことがわかる。とくに市町村道路の充実が著しい。上水道も「一次計画」でおおむね全体への普及を実現したといえる。

下水道については、昭和45年の「一次計画」の段階では福井市だけが公共下水道を設置していた。敗戦直後に就任した熊谷太三郎市長が戦災復興都市計画事業に取り組むと同時に、下水道建設に熱心に取り組み、昭和22年11月に国の認可をうけ、福井市は戦後全国ではじめて下水道事業を実施する都市となった。この事業は戦災都市の「特別都市計画法」の事業の一環として優先的に施工が認められたため、福井市は昭和23年から工事を開始し、市予算では下水道を都市計画、学校建設とならぶ重点事業の一つとして多くの金額をこれにあてた。福井市の昭和42年の下水道普及率は66%で全国平均の29.6%を大きく上回って全国的な注目を集め、毎年各都市から多くの行政視察者が訪問した(『新修福井市史』2)。

昭和45年の「一次計画」の時に公共下水道をもたないその他の都市部では、市街地・工場地帯からの汚水によって、日野川、竹田川、足羽川、九頭竜川の水質が汚濁するという問題が生じていた。そのため、あらたに公共下水道の計画が策定された。(中略)。昭和56年の「三次計画」段階では、下水道の人口普及率は福井市53.0%、坂井郡六町32.7%、永平寺町51.3%、清水町28.5%となっている。

このように全国的にも高い水準で普及した上下水道の整備に、カラヤの水道機材部門は貢献し、戦後のまちづくりの一端を担いました。

商材の拡大と拠点強化



建設中の原子力発電所見学のコマ(昭和45年頃)



「トータス」新装オープン チラシ

昭和37年(1962)には北陸トンネルが開通、昭和43年(1968)には福井国体が開催され、武生市体育館が完成するなど、県内でも新しい道路や建物が整備され始め、建築資材の需要も次第に高まっていきました。それに伴い、昭和30年代から40年代にかけて、扱う商品も広がりを見せていきます。従来より主力だった建築用鉄鋼製品から針金、並板などの二次製品、前述の水道機材、ドライバーなどの各種工具類、さらには建設資材、機械器具、鋼材二次製品の販売加工、冷暖房設備の設計、建設機械のリースなど範囲を広げていきます。

また、取扱商品が増えるとともに、営業の拠点づくりも進められました。昭和46年(1971)7月には武生市家久町に家久営業所(二次製品係)を、同年9月には家久営業所内に鋼材係を、10月には武生市蓬萊町に武生東営業所(機械工具建築資材金物)を開設。昭和49年(1974)4月には武生家久営業所を武生鋼材センターに、武生小松営業所を武生中央営業所に改称。同時に武生市幸町に武生東営業所家庭電化センターを開設しました。昭和50年(1975)には敦賀市に敦賀支店長沢鉄鋼センターを開設し、津内水道営業所を布田営業所に移転しました。

さらに、昭和52年(1977)には武生家久鋼材センターに機械工具営業所を開設し、家庭電化センターを武生西営業所に統合。武生市蓬萊町4号16に住宅設備厨房製品展示場も開設しました。

昭和54年から昭和55年(1979～1980)にかけては、武生市・小浜市に倉庫を3棟新設。取扱商品も飛躍的に増えていきました。

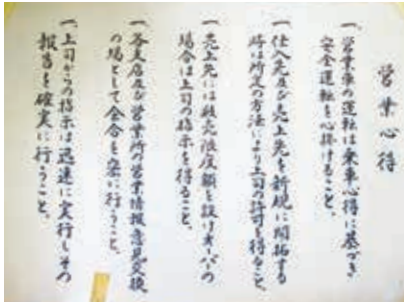
昭和55年(1980)5月には武生本店西店の改装工事が行われ、「トータス」と改称して新装オープン。一般家庭金物や贈答品などを販売するショップとして地域に密着した販売活動も展開しました。



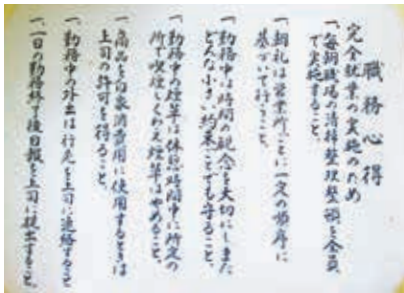
小浜市湯岡町のカラヤ金物株式会社小浜営業所(昭和45年10月開設)

第2章／戦後昭和期

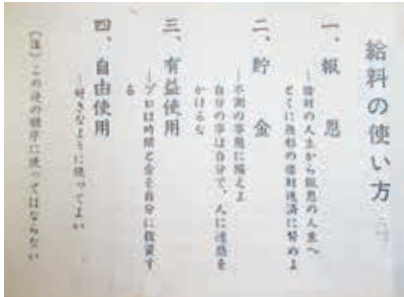
人材育成に注力



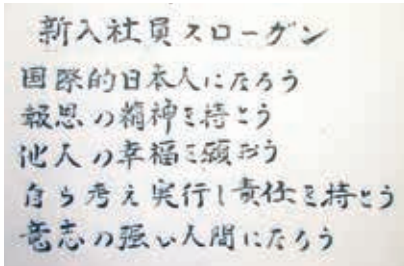
営業マン向け営業心得



職務心得(社内ルール)の徹底



給料の使い方は1～4の順に使うこと。逆から使ってはいけない



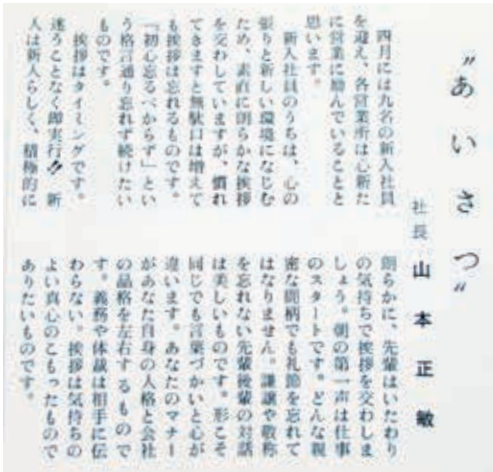
当時の新入社員スローガン

カラヤは人材育成に力を注いできました。昭和50年代の資料からその片鱗を知ることができます。

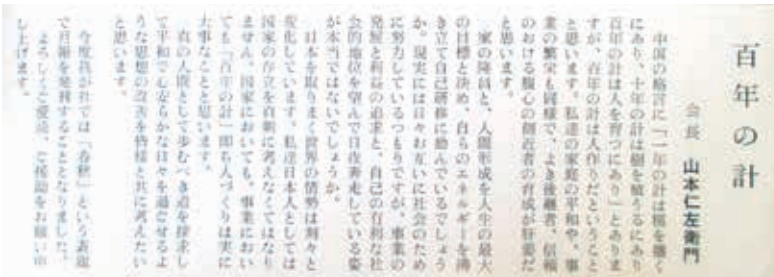
現在は使用していませんが、「営業心得」「職務心得」からも社員教育を熱心に行っていたことが伺えます。

また、昭和55年4月から昭和57年(1980～1982)までの2年間、社員教育や会社の出来事、指示事項などを目的とした社内報「春秋」を発行していました。初回号には、第24代山本仁左衛門(当時は会長)の挨拶文が載っています。第二号では、現社長の寄稿が載せられています。

また、各階層に応じて、教育訓練を行っていました。いつの時代においても、マナー、商品知識、世間一般常識等は必要であり、社員には不断の自分磨きを今も求めています。

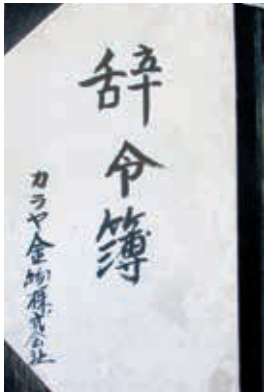


社内報「春秋」第2号より



社内報「春秋」第1号より

適材適所に人材を



昭和37年から現在も使っている辞令簿

現在のカラヤグループの原型を確立

カラヤの人事異動は適材適所の人材配置として、50年以上も前から辞令交付を行って異動をしていました。この辞令簿のスタートは、昭和38年(1963)7月1日です。

今から50年以上も前のものですが、今も現役で使用しています。モノを大切に使う文化は、企業のDNAとして、脈々と現代へも引き継がれています。



昭和の時代の辞令



辞令簿の最初のページ

昭和58年から昭和62年(1983～1987)にかけては、関連会社の設立が相次ぎました。昭和58年(1983)6月に株式会社カラヤ三協を設立したのを皮切りに、昭和60年(1985)7月には株式会社ヤマモトスチールを設立、昭和62年(1987)にはカラヤレントリース株式会社を設立し、現在のカラヤグループの原型が築かれました。



カラヤ金物(株)福井営業所、当時の舞屋倉庫(福井市舞屋町)

コラム⑥ 昭和50年代半ばのカラヤ推奨新商品

カラヤでは、昭和55年から昭和57年（1980～1982）までの2年間、社内報「春秋」を発行していました。記事を見ると当時カラヤが主力としていた商品が掲載されており、当時の生活スタイルを偲ぶことができます。



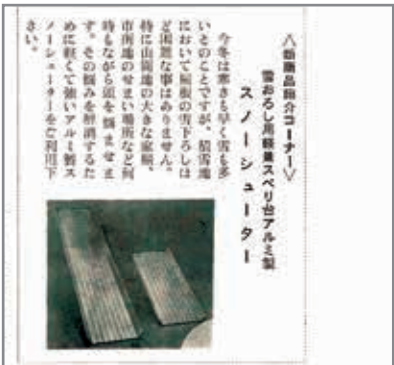
●80年代の省エネルギー
「サンヨーソーラ給湯システム」
太陽熱で温めたお湯をお風呂で使う給湯システムを水道部で販売。この当時からソーラーエネルギーを使った商品を取り扱っていました。



●伊奈サーモスタット付きホームシャワーバルブ
高度経済成長期以降、風呂付住宅が一般的化。湯温を調整できる家庭用サーモスタット付きシャワーも人気商品でした。



●昭和電工のラムダサイディング
断熱性、防火性、遮音性に優れた外壁材。省エネ外壁材として売り出していました。



●雪下ろし用軽量スベリ台アルミ製スノーシューター
屋根の雪下ろしに活躍する軽量スノーシューター。この商品が紹介された昭和55年12月から翌年にかけて、福井は記録的な大雪・56豪雪に見舞われました。



●フジの「金属探知機」
小型軽量の金属探知機。当時の価格で8万5,000円でした。金属物は、スピーカー音と指示メーターで手軽に確認できました。



●スエーデン製パートナー電動カッター
従来のエンジン式カッターに代わり、手軽な電動式が登場。土木、下水、水道工事などへの需要が見込まれました。当時の定価は17万9,000円でした。



●伊奈高級浴槽グランデ
新素材・マールクリスタルを使った高級浴槽。内風呂が標準的になり、家庭用浴槽にも少しずつ高級志向が現れます。



●三菱壁掛式瞬間湯沸器
石油とガスと電子が手を組んで炎をコントロールするという謳い文句の商品。燃費の良さが売りでした。



●三協アルミ床下収納2階用タイプ
2階の床下に見える収納ボックス。当時の価格は3万1,900円～3万5,700円でした。デッドスペースを有効活用する提案型の商品でした。



●ターボライター
省エネを謳った家庭用給湯器。灯油もガスも使わず、わずかな燃料で水を80℃まで上昇できるという当時としては画期的な商品でした。



●同時通話のワイヤレスインターホン
従来のインターホンでは不可能だった同時通話を世界で初めて可能にした商品。



●高速電機（株）メタル切断機
工業先進国である西ドイツ、アメリカで主流だったメタル切断機。作業効率、安全性、精密性に富み、煙、騒音による公害防止が期待されていました。



●コンポスター
「省エネ時代のホープ」というキャッチコピーで登場したコンポスト。1個で約3トンの生ゴミを園芸用堆肥として処理できます。やはりこの時代は省エネ・エコ製品が注目されていたようである。

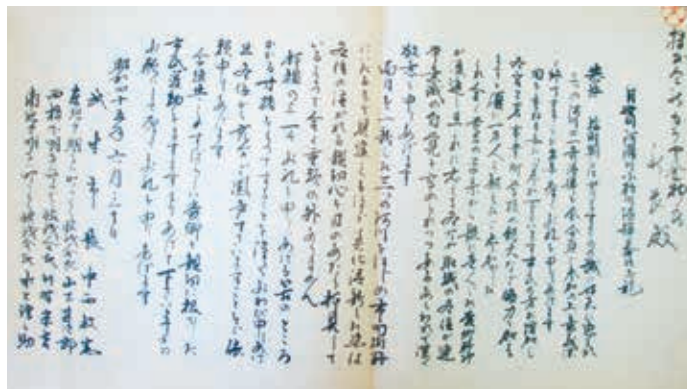


●リンナイ電子コンベック
電子レンジの機能とガスオーブンの機能を1台に集約した新商品。家庭用の調理器具も多機能になっています。



●ダンレックス（株）チューブライト
工事現場の保安標識灯。取り付けが簡単で感電事故の心配が少なく、耐温度、耐候性に優れ、電力消費量も少ない画期的な商品でした。

コラム⑦ カラヤとボランティア活動



昭和45年(1970)6月武生市長よりの河川清掃奉仕お礼状



越前市長よりボランティア清掃の「証」

カラヤでは、ボランティア活動にも取り組んでいます。古い記録では、昭和45年(1970)6月30日付で当時の武生市長よりいただいた日野川河濯川小松川清掃奉仕のお礼状が残っており、以前よりボランティア活動の土壌があったことが伺えます。この精神は現在にも引き継がれ、平成16年(2004)6月より毎年日野川河川緑地公園等の清掃奉仕を行い、越前市長より「証」をいただいています。



毎年6月の第2土曜日に開催の日野川緑地公園ボランティア清掃(武生地区)

人とつながり続けて150年
150TH
ANNIVERSARY
カラヤグループ
カラヤの歴史

第3章／

平成～ 創業150周年

第3章／平成～創業150周年

ホームページ・社内システムの整備



平成28年(2016)5月にリニューアルしたカラヤ株式会社HPのトップページ

20世紀末から21世紀にかけて情報通信技術が急速に発展し、情報化を推し進める企業が急増しました。カラヤでもその流れを受け、平成12年(2000)にホームページを作成。情報の発信に取り組みました。ホームページは時代の変遷とともにリニューアルを重ねており、平成28年(2016)もデザインを一新し、最新情報を発信しています。

また、カラヤでは昭和50年代より他に先駆けてOA化を推進してきました。平成元年(1989)6月21日からは福井地区・武生地区・敦賀地区OA化を本格的にスタート。事務所内でのコンピュータの運用を開始しました。さらに多彩な商品群を効率良く管理するため、平成17年(2005)から1年間にわたってグループ全体の販売、財務、工事の管理システムを刷新しました。

カラヤは、鉄鋼、建設資材、水道機材、機工金物の4部門体制で、取り扱い商品ごとに営業所を構えています。さらに、株式会社ヤマモトスチール、株式会社カラヤ三協、カラヤレンタリース株式会社、カラヤエンジニアリング株式会社とグループ会社も含めると、営業拠点は多岐にわたります。これを一元管理するため、カラヤグループとして1年間で集中的にシステムを一新。取り扱い品目が最も多い株式会社ヤマモトスチールで基本システムを構築し、それをグループの各営業所に展開。拠点ごとに設置したサーバをネットワークでつなぎ、システムの共有化を実現しました。

システムのリニューアルにあたっては、社内では現場の女性スタッフも交えたプロジェクトチームを結成。ディスカッションを重ね、在庫確認や過去のデータなどの照会業務がスムーズにできるシステムを構築し、業務の効率化を図っています。



三谷商事情報システム部広報誌「夢の架け橋」64号(平成20年10月発行)より

拠点づくり、販売力を強化



平成23年(2011)6月わくわくフェア

平成10年(1998)以降は、拠点づくりの強化もすすめられました。平成11年(1999)には布田営業所を移転し、敦賀建設資材営業所に改称。平成12年(2000)には、カラヤレンタリース株式会社寮町新事務所を開設。平成13年(2001)には、小浜水道機材営業所を新築移転、さらにはカラヤレンタリース株式会社丹南営業所を開設しています。

平成15年(2003)には、大西エンジニアリング株式会社(平成9年11月25日設立)の商号をカラヤエンジニアリング株式会社に改称し、グループとしての名称統一を図っています。

平成23年(2011)7月には、敦賀建設資材営業所を移転。敦賀水道機材営業所と統合し、木崎営業所に改称しています。

あわせて販売力の強化にも努めました。商談フェアとして「ビックわくわく市」を開催するほか、全国のメーカーが多数参加した福井どてらい市にも出展。販路の拡大につなげました。



平成4年(1992)わくわく市「頑張ろう!!」

私募債の発行

カラヤでは平成13年(2001)に、福井銀行引受無担保社債、いわゆる私募債を発行(1億円)しています。私募債とは、企業の資金調達のために発行する社債の一種で、その発行は一定の財務水準をもつ優良企業に限られています。

第3章／平成～創業150周年

武生中心 市街地活性化



越前市蓬萊町「蔵の辻」一角
(カラヤの東店があった一角です)

カラヤでは、発祥の地である越前市の中心市街地活性化にも関わってきました。昭和60年(1985)には武生市中心市街地活性化計画協議委員に山本仁左衛門(第24代)が名を連ね、昭和62年(1987)には山本仁左衛門が社長となり、「蓬萊開発株式会社」を設立。蓬萊町の開発計画を進めました。カラヤ発祥の地である蓬萊町は現在「蔵の辻」として整備され、白壁の蔵が建ち並び、ショップやカフェが集まる人気スポットとなっています。

平成27年(2015)4月には「まちづくり武生株式会社」が設立され、代表取締役社長に、カラヤ現社長である山本仁左衛門(第25代)が就任しました。まちづくり武生株式会社は、越前市と武生商工会議所が中心となり、地域住民や民間事業者と手を携え、中心市街地の抱える課題を解決しながらまちの発展をめざすことを目的として設立されました。空き家の活用や蔵の辻イベント情報の発信、まちなか開業支援など、さまざまな活動を展開しており、地域の活性化を図っています。

社員大会



毎年実施の社員大会
新年度のスローガンを唱和します

カラヤでは毎年決算後の2月に社員大会を開催しています。これは全社員で一年間の労をねぎらい、次年度に向けての士気を高めるための社内イベントで、カラヤの恒例イベントとなっています。

社員大会では営業報告、業績表彰、永年勤続表彰、来年度のスローガンを発表するほか、講師を招いての講演会なども行われます。懇親会では各営業所が持ち回りで工夫をこらしたアトラクションを披露するなどの楽しい企画もあり、社員の結束を高める場となっています。



社員大会懇親会アトラクションの
一コマ。司会進行役の営業所が、その
場を盛り上げます

若志会の結成



若志会で発行している社内広報誌「カラフル」の創刊号
(平成20年1月発行)



社内広報誌「カラフル」26号(平成26年10月発行)

カラヤでは、平成12年(2000)7月に若手社員を対象とした「若志会」という社内組織を結成しました。これは、将来、会社を担う社員を育成することを目的とした会で、営業所長からの推薦を受けた若手社員(35歳まで)を中心とし、19名でスタートしました。メンバーは年ごとに入れ替わっていますが、現在も活動を続けています。

若志会の主な活動の一つが勉強会です。営業力アップを図るため、各メーカーの取扱商品の勉強会やメーカーの工場見学、手形・小切手など経理上必要な知識の勉強会を開催するほか、幹部職員の体験談や外部講師を招いての研修会を開催したりと、多方面から若手社員の研鑽に取り組んでいます。平成18年(2006)には住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを受け、若志会が中心となって住宅用火災警報器の販売キャンペーンを実施。カラヤグループ全体での拡販を図るとともに、社内の士気向上につなげました。

また、若志会では会の活動をカラヤグループ全体に広く発信し、交流を図ることをめざし、平成20年(2008)より社内広報誌「カラフル」を発刊しています。若志会メンバーが編集・作成までを手掛ける手作りの社内広報誌で、新商品の紹介や各種展示会やメーカーの工場見学の様子をレポートするなど若志会の活動を紹介しています。さらには、各営業所の取り組みや社員大会、社内レクリエーション、ボランティア活動など、社内の情報も発信。グループ間の情報共有も図っています。

カラヤは営業所ごとに独立採算制を取り入れているため、営業マン同士が横のつながりを持つ機会が少なかったのですが、若志会を結成したことにより、各営業所の若手社員が連携。営業所同士が交流を図ることにより、グループ全体としての総合力も高めています。

第3章／平成～創業150周年

柄水会・水仙会の 発足



平成28年5月13日に開催された
カラヤ水仙会の第50回親睦ゴルフコンペ
(ゴールド福井カントリークラブ)



平成28年5月19日に開催された
カラヤ柄水会の第53回親睦ゴルフコンペ
(ジャパンセントラルゴルフ倶楽部)

太陽光発電の導入



木崎営業所第2倉庫屋根に設置
パネル面積323.76㎡、
パネル枚数198枚(1枚:1650mm×991mm)、
発電出力46.5kw

カラヤでは、メーカー・商社など仕入れ先とのつながりを密にするための活動にも力を入れています。

水道部門では昭和62年(1987)12月に「カラヤ柄水(えみず)会」を、機工金物部門では平成2年(1990)4月に「カラヤ水仙会」をそれぞれ発足しました。カラヤ柄水会は現在32社、カラヤ水仙会は現在28社が加盟。恒例となった親睦ゴルフコンペや懇親会などの活動を通じて仕入れ先との交流を図り、円滑な取引につなげています。



平成28年度カラヤ水仙会総会の様子(ホテルフジタ福井)

平成25年(2013)10月、カラヤでは木崎営業所にグループ初となる太陽光発電システムを導入しました。

木崎営業所社屋の屋根に太陽光パネルを取り付け、倉庫内壁面にインバーター保護回路、配電盤等を設置。事務所内には発電量を表示するモニターパネルを設置しており、随時発電状況を確認することができます。

現在、発電した電気は全て販売しています。年間の発電量を一般家庭で置き換えると、オール電化住宅で約23戸分、一般住宅では約40戸(家族4人暮らし)に相当します。

コラム⑧ 低成長時代の企業経営

福井経済同友会・企業経営委員会が平成25年(2013)3月に発表した「低成長時代の企業経営―長寿企業に学ぶ経営法則―」というレポートにカラヤが紹介されています。このレポートでは、長寿企業を「創業から100年を経過しているか、ほぼ達成可能と思われる企業で、事業内容に 革新性があり、規模的拡大がみられる企業」と定義。長寿企業の経営法則について、取材しています。その一部を抜粋してご紹介します。

―社員重視経営による地域密着型長寿企業―

同社の営業体制にはいくつかの特徴があることがわかる。その一つは、福井県内4市にそれぞれ複数の営業所を置き、事業種目別に営業所を分けていることである。その理由を尋ねると「営業マンが地元の顧客と信頼関係を築き、長いおつきあいを地道にやっていく形を大切にしたい」と答える。こうした商いは、専門性を持った営業マンが顧客との結びつきを深め、超地元密着と言える営業スタイルで臨むことが重要だが、同社では商いの基本ともいえるこのスタイルを貫いてきたのである。

二つ目は、営業マンが自ら仕入れを行う点にある。年商131億円(平成24年1月実績)の企業で、あえて仕入れ部門を担当分けしない体制をとっている。仕入れ先と売り先の両者を大切に信頼関係をもつことが、同社の営業マンには必須となっているのである。昭和40年代、前会長の時代には、役員全員が営業所の責任者となり、代表権付きで印鑑も手形も任せていたという。非常に大胆ではあるが、各営業所の地元との繋がりの中で、動きやすい体制を重視したものと推察する。

これが成り立つには、会社と社員の間においても強い信頼関係が大前提となる。会社は社員を信頼し大切に、一方、社員は大切にしてくれる会社を大切に考え、仕入れから販売まで責任を持って管理し、利益を出そうと頑張るモチベーションに繋がる。例えば、お歳暮やお中元の品々は、会社に届く品だけでなく、かつては役員の家庭に届いた品も会社に持ち寄り、全社員に均等に分けるそうである。些細なことでも、社員を大切にしていることが、何らかの形で伝わる。このあたりに、旧来、商家で行われてきた経営ノウハウの匂いが感じられる。おそらく同社には、何百年にもわたり受け継がれた旧商家独特の考え方が、今も企業経営の遺伝子として息づいているのではないだろうか。

現社長が語るカラヤ回顧録

創業家に生まれ、昭和から現在までカラヤを見つめ続けてきた第三十五代・山本仁左衛門。自身の経験談を交えながらカラヤの歴史を振り返ります。



山本仁左衛門

昭和18年生まれ。法政大学卒業後、津田鋼材株式会社勤務を経て、昭和46年6月よりカラヤ金物株式会社入社。昭和60年、ヤマモトスチール社長に就任。平成4年、カラヤ株式会社社長就任。平成24年5月、山本正敏より山本仁左衛門を襲名。現在に至る。

倉庫が遊び場だった小学生時代

私が生まれたのは昭和18年(1943)。まだ戦争が終わっていない頃でした。記憶にあるのは、昭和23年(1948)の福井震災ですね。福井の方が真っ赤に燃えて、先代が福井から歩いて帰ってきたのを覚えています。武生は震災の影響はなかったけど、揺れたのは覚えていますね。今の蓬莱町の蔵の辻のところは南から北へ入る道があるんですが、そこに会社があって、上が住宅になっていて。隣の家の白い塗り壁が落ちたのは覚えています。

その当時は住み込みの従業員もいて、お昼は社員も全員一緒に食事をしていました。おふくろがおかずを作っ

てね。毎年、大根の樽なんて何本漬けていたかな。1年分の大根ですからね。親は飯食べてる暇ないから、私ら、小さいときは家族で食事した覚えはないですね。

家と会社があった蓬莱町は街の真ん中で、小学校のときは周りに同級生がいっぱいいました。3階建てだった倉庫は雨が降ったときの遊び場で、今でも話に出ますね、「おお、あんたもあそこへ来てたんか」ってね。倉庫が入り口から80mくらいあったのでよく50m競争をしていました。倉庫は北陸で初めての横引きシャッターで、大正時代に作ったと聞いています。下は木煉瓦で、2階への上り口は大理石の階段を上がりました。2階はコンクリで梁の部材はレールでした。その上が木造という3階建てです。昭和38年(1963)の豪雪のときも雪を降ろさずに済んだほど頑丈な造り



武生市蓬莱町59番地のカラヤ金物西店

でした。近所で雪降ろしてないのは、カラヤの倉庫ぐらいじゃないでしょうか。ここは鉄の倉庫で、2階・3階は鍋や釜やビス類が置いてありました。

売り出しで警察が出るほどの活気

小学生の間は蓬莱町の54番地にいたんですが、中学入る頃に59番地に移りました。54番地は長細くて、上に住居があって下にお風呂があったんですが、手狭になったので倉庫にして、54番地の2階と奥の蔵をおばあちゃんの住居にしたんです。そこにおばあちゃんが住んで、上に我々が親父らと家族全員が住んでいました。

54番地では水道などの新しい部門を始めて、59番地では引き続き金物の商売をしていました。59番地の頃、店の前に鍋やら釜やらバケツやらの商品を並べて、毎日出し入れした覚えがあります。

小さいときは家と会社と一緒にあったから、朝、社員が来ると、市外通話を申し込んでいたのも覚えていますね。昭和20年代は、電信公社に電話を入れて、そこから順番に繋ぐので順番待ちで大阪への市外通話がなかなか繋がらなくてね。4~5時間後に「ハイ繋がりました」と電話が来たら、そこでワーッと注文していました。

昭和30年ごろは活気がありましたね。家の前は松並木があって川が流れていたし、三輪車が走っていました。鍋やヤカンの売り出しのときにはものすごい人ばかりでしたね。ブリキの衣装缶を景品にしたら、祭

りみたいに人がいっぱい来て、人がいっぱい出られない、人が通れない、車が走れないって警察官が出たほどです。

売る物がないって名古屋まで商品を車で取りに行ったこともよくありました。品物がなかった時代だったので、鍋・釜ならなんでも売れたんです。

それから、だんだん鉄が出るようになって、ここ(現在の本店／越前市中央2丁目6-5)に来たんです。私が高校のころにはここに家ができました。昭和30年の半ばですね。ここには、我々の住居と社宅が3軒ありました。



武生市蓬莱町54番地のカラヤ金物東店



福井市舞屋町のカラヤ金物舞屋倉庫



株式会社ヤマモトスチール 福井営業所



昭和56年(1981)頃の会社案内パンフレットより。先代と現社長



昭和56年(1981)頃の武生市家久町カラヤ金物株式会社 家久センターの一角

大学時代から からや鋼機でアルバイト

東京の法政大学に進学したんですが、大学に行っている4年間は、休みになると福井のからや鋼機にアルバイトに行っていました。福井の舞屋(現在の株式会社ヤマモトスチール 福井営業所)にも行っていましたね。18歳で免許が取れるので、20歳ころには4トン車を運転して大野や勝山へ資材を運んでいました。大野への配送中に途中でパンクしたこともありまして。ジュピターって車で、後ろのタイヤが4本なんですが、タイヤの間に石がはさまるんですね。当時は国道158号線がまだ開通していなくて、大野へ行くには堤防の上を走って砂利道を通るんですが、ここで間に石が挟まると摩擦でバーンとパンクするんです。何度も車置いて帰りました。トラックの荷台だけ置いて鍵かけて。

アルバイトは日給200円で最後は500円だったかな。学生時代でしたから、それで飲みに行けました。大学生は7月1日から8月いっぱい夏休みだったので、6月29か30日には帰ってきて翌日から、朝6時半の汽車で福井まで通いました。

昭和30年代から40年代は、日本が高度経済成長の時代ですね。学生時代に東京オリンピックを見て、大阪に就職して大阪万博を見ましたし、新幹線にも乗りました。

敦賀トンネルもよく通りましたね。当時は有料道路で。道幅が狭く、10トン車や8トン車がやっと通れる道がずっと敦賀まで続いていました。国鉄の北陸トンネルの工事が始まっていたので、資材を持って行っていますね。北陸トンネル専用って書いたトラックで運ん

でいたのを覚えています。工事が本格化して、昭和35年(1960)に敦賀支店ができたんです。昭和41年(1966)には原子力発電所の工事も始まりましたね。

卒業後は大阪で修行

大学を卒業後は大阪の津田鋼材に就職しました。祖父(第23代)も明治の終わり頃に津田鋼材へ修行に行っていましたから、カラヤからは2人目ですね。私が入社したのは昭和42年(1967)です。

入社して1年は木津川倉庫で働きました。あの頃の木津川はどぶ川みたいで、夏は臭いがひどかったですね。冬は冬で寒くて寒くて。当時土曜日は半ドンでしたけど、忙しくて半ドンになったことはなかったですね。帰るのが晩の8時とかザラでしたし、日曜出勤もあった。給料は8万円でしたが、残業代で貰うのは4万円とか。忙しかったなあ。

船で運ばれてきた鉄を荷揚げするんですが、夜中日が暮れるまで揚げてましたね。400トンくらい、死にも狂いでした。仕事が夜になるとラーメン食べていいぞと言われるんですが、今日は大盛り食っていいぞとなったら、内心「うわぁ、また10時までだな」と、ラーメンで何時までかかりそうか、わかりました(笑)。隣はセメント会社で昼でも雪のようにセメントの粉が降ってきたり。とにかくすごいところでした。昭和43年から昭和44年(1968～1969)は大阪市内の特約店の資材係を担当し、大阪市内と姫路や箕島、和歌山へも営業に回りました。最後は経理を担当し、4年半勤めました。

オイルショック後、苦しい時代へ

昭和46年(1971)にこちらに戻って、福井の舞屋営業所に行きました。そのあとすぐに武生の家久に戻りました。確か昭和50年(1975)頃ですね。当時は倒産事件がたくさん起きて大騒ぎだったのを覚えています。入社した時の給料が、2万1,000円くらいでしたね。昭和50年になったころには10万円。高度成長期のまっただ中でしたから、忙しかったですね。私が覚えてる範囲でいうと、昭和48年(1973)12月に売上89億円、経常利益5億円。福井県でもトップクラスでしたが、このあとバーっと引っかかる(=取引先の倒産)んです。次の年、2,000万、次の年6,000万って具合にね。昭和50年から昭和55年(1975～1980)の倒産ラッシュのときに、会社としては一番苦しい時期でしたね。

オイルショックが終わった昭和48年の末頃から昭和63年(1973～1988)までは多少の上下はありますが、右肩下がりででした。

このとき、儲からないということで、鉄部門を分けたんです。それが株式会社ヤマモトスチール。設立と同時に社長に就任しました。業界全体が厳しい時代でしたが、当社は昭和49年から昭和53年(1974～1978)が特に苦労しましたね。昭和63年、平成元年頃から良くなりました。

平成バブル始まりの予兆

当時カラヤはよかったけど、ヤマモトスチールは順風

満帆ではなかったですね。カラヤの社員がヤマモトスチールに転籍になると、かたっぱしから辞めていくし、大変でした。2年赤字が続いて、3年目から黒字になるんですが、人は入れ替わり立ち替わり辞めました。朝来て、昼飯食べに帰ってそのまま戻ってこない人もいましたし。でも、次から次へと人は来た時代です。

私は、株式会社ヤマモトスチールになって倉庫の仕事もしていました。人手は足りないし、シャツ一枚でずーっと倉庫に入っていました。お客さんが来ると「ちょっと待って下さい」って、シャツ脱いでギューッと絞って作業着着て、ハイって対応したものです。人手も足りませんでした。鉄の扱い方を知っているのが私だけでしたからね。たとえばL字型の長い鉄を、しなりを利用して傷つけないように、少ない力で手作業で動かしたりとか…。私は高校時代からやってるから身に付いていますけど、新しい人が入ってきてても鉄なんて見たこともない人ばかりですからね。教えるのには苦労しました。

オイルショックの頃は、鉄の値段が上がり出したらダーッと上がって高く売りました。メーカーもどんどん仕入値段を上げてきましたからね。それで引っかけたときの影響が大きかった。だから、バブルといわれた平成2年から平成3年(1990～1991)頃はその教訓をふまえて仕入価格がじわっとしか上がらなかった。だから売値もさほど高騰することなく、そこそこ潤ったんです。バブルがはじけたと言われた後も、地方は平成7年(1995)頃までは景気が良かったんじゃないでしょうか。当社でも決算書を見ると、平成2年(1990)から利益が出だして平成7年(1995)まで好調でしたね。



社員大会実績表彰の一コマ



社員大会のアトラクションの一コマ(メイド風の扮装で早食い競争をサポート)



社員大会の一コマ

CI導入、OA化の推進

平成4年(1992)にはCIを導入しました。「カラヤ金物」というと鍋・釜の延長というイメージがあったので、「金物」を取ってしまおうと。それで社名もロゴも一新しました。それまではずっと井桁のマークでしたね。社名案は社内でも募集してカラヤスチールとかカラヤ商事とかカラヤンとか、いろいろありましたよ。マークは金沢美工大に依頼して作成しました。社名もロゴも変えましたが、なにしろ戦前から「カラヤ金物」でやってきましたからね。今でもカラヤ金物って呼ぶ人もいますけどね。

IT化への取り組みも早かったですね。イタリア・オリベッティ社の事務機を入れたのが始まりですね。昭和49年頃じゃないかと思うんですが、今の中央営業所の建物の一角で、夜中じゅうキーを打っていました。こんな夜中までやらないといけないなら何のために入れたのかってね。それからオフコンに移行して、その後にパソコンに変わるんです。当時は事務機も高かったですからね。でも、早めに導入したおかげで会計報告は非常にスムーズになりました。

営業所ごとに独立採算制にしていますが、それも数字できちんと出ますね。

三方良しの商売を

カラヤの社長に就任してからも、気持ちはそんなに変わりませんね。どちらかというとヤマモトスチールに就任したときの方が苦しかったですから。そのときの苦労を忘れずにやっていこうという感じです。当社は150年の歴史がありますが、真面目というか泥くさくいくのは昔から変わりませんね。先代もそうでしたし。三歩進んで二歩下がるくらい。売上は追うけど無理な追い方はしない。これだけ営業所があると浮き沈みがありますから、沈んだところにはどうしたんだといった話はするけれど、できないこともできるだけ努力して、『三方良し』でやっていこうよと。先代もそんなにガミガミ言うことはなかったですね。

社員教育にはモラロジーの考え方を取り入れていきます。道徳と経済は一緒だという道経一体論で、道徳的な感覚で仕事をしていかないと、という考え方ですね。第23代のときから代々受け継がれています。商売でいうと、『三方良し』ですね。売ったも良し、買ったも良し、それによって周りが全部良くなるような商売をしないといけないというのが三方良しです。

「自ら品性の陶冶に錬み、健全な身体で企業活動を通じ道義社会の建設に邁進せよ」という今の社是を作ったのは先代ですね。あと選択定年制も作りました。50歳、55歳という節目の年に辞めると退職金をもらえて、そのあと給料は下がりますがそのまま勤めてもいいし、勤めなくてもいいと。これは今でも継続しています。

当社は地域社会のおかげで成り立っていますので、その恩返しの意味で教育関係への寄付をさせていただいています。20年ぐらいになるでしょうか。武生市中心市街地の開発にも携わっています。一時は蔵の辻などの商業的な整備を行っていましたが、今は街なかの貸家のコーディネイトなど、人が住みやすい街づくりをめざしています。

原点に戻って次の時代へ

今は私が苦労した頃とはまた違った厳しさがある時代です。統廃合や廃業などで取引先の数も減っている。だからこそ、若い人たちには150年を迎える今、原点に戻って、またこれから一から50年100年に向けてやっていってほしいと思っています。商売の原点は同じですからね。そろばんを使うかパソコンを使うかの違いはありますが、昔はどういう考え方だったか改めて振り返り、次の時代へとつないでいってほしいと思います。



平成6～7年頃の役員と武生地区の社員の集合写真



山本仁左衛門 主な公職等履歴

【福井県】

平成18年10月～平成26年10月

福井県人事委員会委員

平成25年10月～平成26年10月

福井県人事委員会委員長

【武生市】

平成8年10月8日～平成12年10月7日

武生市教育委員

平成10年1月26日～平成10年10月5日

武生市教育委員長職務代理者

平成10年10月6日～平成12年10月7日

武生市教育委員長

【越前市】

平成17年12月22日～平成23年10月31日

越前市行財政構造改革推進委員会委員長（初代）

【福井県越前警察署】

平成17年4月1日～平成19年3月31日

福井県越前警察署協議会会長

【武生商工会議所】

平成13年11月1日～

武生商工会議所 副会頭（現任）

【民間組合】

昭和54年4月10日

福井県鋼材販売事業協同組合 理事長（初代）

平成17年5月30日～平成21年5月27日

福井県鋼材販売事業協同組合 理事長

【民間会社】

平成27年4月1日～

まちづくり武生株式会社

代表取締役（現任）

【表彰等】

平成27年10月10日

越前市市政功労者表彰 受賞

平成28年2月7日

福井県産業振興功労者表彰 受賞



営業所紹介

カラヤ株式会社 福井水道機材営業所



【取扱品目】水道機材・住宅機材・配管工具類販売



福井市日之出5丁目8-27
TEL:0776-54-3185

カラヤ株式会社 家久営業所



【取扱品目】鉄鋼二次製品類販売



越前市家久町48-8-1
TEL:0778-24-2660

カラヤ株式会社 中央営業所



【取扱品目】建築金物・機械工具類・家庭用品販売



越前市中央2丁目6-5
TEL:0778-22-2100

カラヤ株式会社 武生水道機材営業所



【取扱品目】水道機材・住宅機材・配管工具類販売



越前市中央2丁目6-5
TEL:0778-22-2101

カラヤ株式会社 長沢営業所



【取扱品目】鋼材・丸棒販売



敦賀市古田刈14-2 TEL:0770-23-1614

カラヤ株式会社 木崎営業所



【取扱品目】水道機材・住宅機材・配管工具・建設資材販売



敦賀市助生野73-26-1 TEL:0770-22-5121

カラヤ株式会社 津内工具営業所



【取扱品目】機械工具類販売



敦賀市津内町2丁目8-3
TEL:0770-22-5170

カラヤ株式会社 小浜営業所



【取扱品目】鋼材・丸棒・建設資材・機械工具類販売



小浜市湯岡11-8-5 TEL:0770-52-2100

カラヤ株式会社 小浜水道機材営業所



【取扱品目】水道機材・住宅機材・配管工具類販売



小浜市府中8-3-1
TEL:0770-52-2211

株式会社ヤマモトスチール 福井営業所



【取扱品目】鋼材・丸棒・土木建設資材・機械工具類販売



福井市舞屋町15-5-1 TEL:0776-36-1148

株式会社ヤマモトスチール 武生営業所



【取扱品目】鋼材・丸棒・土木建設資材・機械工具類販売



越前市家久町46-8-1 TEL:0778-24-2253

カラヤレンタリース株式会社

【取扱品目】建設機械器具のレンタル・販売修理、車検業務



日之出営業所／
福井市日之出5-11-19
TEL:0776-53-3060



寮町営業所／
福井市寮町10-2-1
TEL:0776-53-8186



丹南営業所／
越前市家久町46-8-1
TEL:0778-22-9107

株式会社カラヤ三協



【取扱品目】アルミサッシ・インテリア建材・エクステリア建材・
水回り品販売



越前市家久町48-8-1
TEL:0778-23-5553

カラヤエンジニアリング株式会社



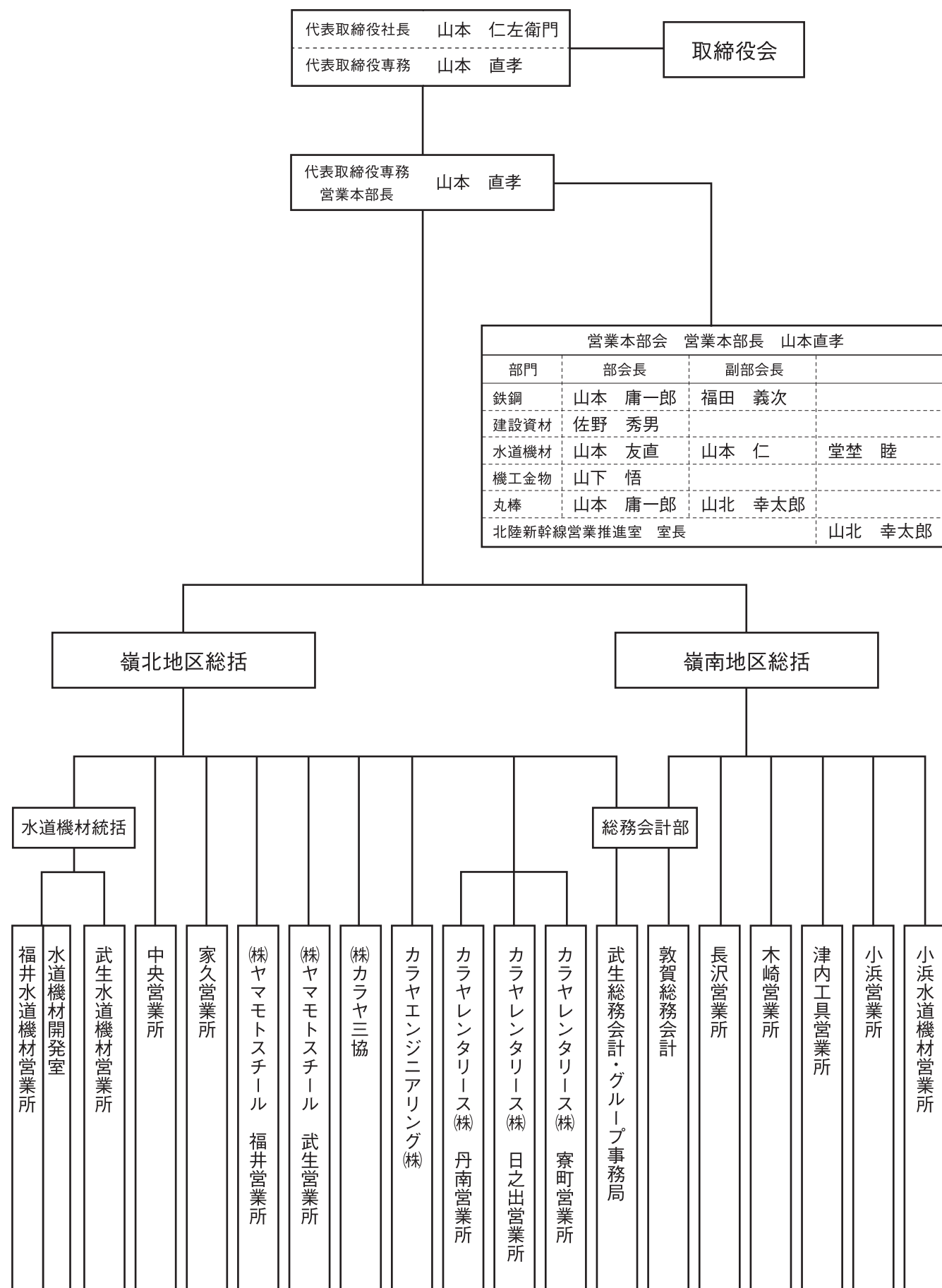
【取扱品目】鉄鋼構造物設置工事・機械器具設置工事



坂井市坂井町下関13-9-1
TEL:0776-72-3160

カラヤグループ組織図

(平成28年9月1日現在)



WORKS ライブラリー

WORKS LIBRARY

～カラヤの工事・資材納入実績の一部をご紹介します～

公共施設



工事名：大野市庁舎整備事業
工事その1
内 容：(その1)鉄筋、型枠、
屋根及び樋、金属工事
仕上げユニット工事 外構工事
(その2)ルーフトレン、
サイン工事、金属工事、鉄筋
発注者：大野市役所
完 成：平成26年11月
写真提供元：大野市役所



工事名：福井駅東口再開発ビル
(アオッサ)
内 容：衛生機器納入
完 成：平成19年



工事名：武生商工会議所
新築工事
内 容：資材納入
発注者：武生商工会議所
完 成：平成9年
写真提供元：武生商工会議所



工事名：敦賀駅西地区開発工事
内 容：水飲み場・
車止めボール設置工事
発注者：敦賀市
完 成：平成26年3月

WORKS LIBRARY

スポーツ施設



工事名：丹南総合公園
内 容：野球場ナイター設備・フェンス・
防球ネット設置工事
発注者：福井県丹南土木事務所
完 成：平成25年9月



工事名：越前市新サッカー場
内 容：フェンス外構工事
発注者：越前市
完 成：平成28年4月



工事名：長山公園屋内運動施設ゾーン
体育館新築工事
内 容：H・L・Cカラー QL、TBB、SPL、
STK490B丸パイプ、朝日スチールフェンス
発注者：勝山市
完 成：平成28年4月



工事名：グラウンド・ゴルフ場（リラグリーン）
付属施設工事
内 容：看板設備工事
発注者：敦賀市
完 成：平成28年3月



工事名：グラウンド・ゴルフ場（リラグリーン）
造成工事
内 容：獣害防止柵工 H=2100 延長1000m
発注者：敦賀市
完 成：平成27年5月



工事名：武生中央公園体育館
内 容：鉄骨資材納入
発注者：越前市
完 成：平成29年秋完成予定
写真提供元：越前市

WORKS LIBRARY

道路



工事名：原子力発電施設等
緊急時安全対策
交付金工事
内 容：縄間区トンネル
（馬背峠トンネル）
鋼製支保工198基260t納入
発注者：福井県敦賀土木事務所
完 成：平成20年5月



工事名：原子力制圧道路等
整備工事
内 容：敦賀市二村地係
落石防護柵工
発注者：福井県敦賀土木事務所
完 成：平成26年度



工事名：北陸自動車道福井管内立入防止柵工事
内 容：福井管内立入防止柵工事
発注者：中日本高速道路㈱
完 成：平成24年12月



工事名：北陸自動車道今庄IC～加賀IC間防護柵
更新工事
内 容：ガードレール工事
発注者：中日本高速道路㈱
完 成：平成27年3月



工事名：福井河川国道管内防護柵工事改修工事
内 容：中央分離帯ボックスビーム工事
発注者：国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所
完 成：平成24年3月

WORKS LIBRARY

道路



工事名：三方～世久見道路改良工事
内 容：道路拡幅工事
発注者：国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所
完 成：平成25年11月



工事名：市道西浦1号線道路整備工事その2
内 容：防護柵工700m他安全対策工
発注者：敦賀市
完 成：平成27年5月



工事名：清水山橋橋梁補修工事
（防災・安全交付金〔補正予算〕）
内 容：橋梁補修工事
発注者：福井県福井土木事務所
完 成：平成27年3月



工事名：平成24年度永平寺大野道路標識
その他工事
内 容：ガードレールその他
発注者：国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所
完 成：平成25年3月



工事名：北陸自動車道 福井北ジャンクション工事
内 容：大型標識納入
発注者：中日本高速道路(株)
完 成：平成27年3月



工事名：平成26年度永平寺大野道路標識
その他工事
内 容：立ち入り防止柵フェンスその他
発注者：国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所
完 成：平成27年3月

WORKS LIBRARY

看板・その他



工事名：敦賀市観光案内標識
設置工事
内 容：標識設置工事
発注者：敦賀市
完 成：平成22年11月



工事名：さくらの里整備事業
内 容：案内看板設置工事
発注者：敦賀市
完 成：平成23年3月



工事名：福武線田原町駅
改築工事
内 容：駅舎鉄骨工事
発注者：福井鉄道株式会社
完 成：平成27年3月



工事名：昭和浄水場フェンス取替修繕
内 容：フェンス取替修繕
発注者：敦賀市役所
完 成：平成27年7月



工事名：小学校非常用貯水装置敷設工事
(順化小学校他)
内 容：非常用貯水装置敷設工事
発注者：福井市
完 成：昭和57年(第1回敷設・順化小学校)

KARAYA
CHRONOLOGY

カラヤの歩み

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
	幕末頃	福井県南条郡武生町蓬萊において金物業を開業（個人開業）		
1869	明治2年	1月15日、第20代一鳳没（56歳）	府中を「武生」と改称	版籍奉還
1871	明治4年		福井県・敦賀県が成立	郵便制度開始 戸籍法制定
1872	明治5年			學問ノスヘメ発表 太陽暦採用
1873	明治6年			地租改正
1877	明治10年		本山毫摂寺焼失、 類焼100余戸に及ぶ 武生警察署設置	西南戦争 インド帝国成立
1878	明治11年	2月9日、山本太四郎誕生（後の第22代）	明治天皇北陸行幸、引接寺が 行在所となる 武生に南条・今立両郡役所設置 第五十七国立銀行が 武生町（現越前市）に設立	
1880	明治13年		武生商法会議所設立	
1883	明治16年			鹿鳴館完成
1885	明治18年			内閣制度発足
1887	明治20年	「福井県下商工便覧」に広告 萬金物大工道具西洋釘洋鉄鋼〈山本店〉		
1888	明治21年	3月2日、山本直誕生（後の第23代）		大日本帝国憲法発布
1889	明治22年		武生局で電報開始 市町村制度実施武生町 人口12,937人	教育勅語発布
1890	明治23年		武生区裁判所設置	八幡製鉄所設立
1894	明治27年	明治二十七年略暦発行 （金物商 山本太四郎）		日清戦争

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1896	明治29年		北陸線森田まで開通 武生駅営業開始 武生税務署設置	
1898	明治31年		福井県武生尋常中学校 （旧制武生中学校）開校 （現在の武生高校）	
1902	明治35年	度量衡金物商 武生町蓬萊 カラヤ山本仁左衛門「引き札」（広告）発行		
1903	明治36年		武生町大火、蓬萊町ら1,057戸焼失	
1904	明治37年	「福井県実業家案内すご録」に広告 越前武生蓬萊「カラヤ仁左衛門」 （北陸朝報附録）		日露戦争
1906	明治39年		町立武生女子実業学校開校 （現在の武生高校）	
1907	明治40年		電話が開通する	
1908	明治41年	武生郵便局で初めて電話回線 65回線が敷かれる （山本仁左衛門電話番号 59番）		
1909	明治42年		初めて電灯が灯る （越前電気㈱…後の北陸電力） （本社=今立郡鯖江村）	
1913	大正2年		武生町大火、481戸焼失	
1914	大正3年		武岡軽便鉄道、五分市まで開通	
1915	大正4年	武岡軽鐵開通式 福井新聞の開通祝い に南条郡郡会議員・ 山本仁左衛門が名を連ねる 併せてカラヤ仁左衛門の店舗新築開店も広告		
1917	大正6年	8月11日、山本興一郎誕生（後の第24代）	北陸電化会社工場操業 （信越化学工業 武生工場の前身）	ロシア革命
1918	大正7年		武生魚市場創立	
1919	大正8年		武生無尽会社設立	
1920	大正9年		第1回国勢調査、 武生町人口18,068人 福井銀行武生支店設置	教育勅語発布
1923	大正12年		福井県庁を移転（福井城跡）	関東大震災
1924	大正13年		南越鉄道、今立鉄道を合併、 戸の口（鯖江市）まで延長	
1925	大正14年	1月10日、第21代仁鳳没（76歳） 第23代直、山本仁左衛門襲名	福武電気鉄道、武生新～福井新 まで開通	治安維持法案公布 普通選挙法公布
1926	大正15年		郡役所廃止	大正天皇崩御
1928	昭和3年		だるまや開店	

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1929	昭和4年	6月14日、合名会社山本仁左衛門商店を設立 （現在の株式会社カラヤ金物本店） 資本金＝5万円	武生公会堂落成する（設計施工＝武生土建・・・後の師田土建） 当時の建築費8万円（武生市民の寄付と町費で捻出） （平成17年2月国の登録有形文化財）	世界恐慌
1931	昭和6年			満州事変
1933	昭和8年		福井放送局を開設	国際連盟脱退
1937	昭和12年			日中戦争
1938	昭和13年			南京大虐殺
1940	昭和15年			日独伊三国軍事同盟
1941	昭和16年		福武電気鉄道、南越鉄道を合併する（後の福井鉄道）	太平洋戦争開始
1943	昭和18年		山本正敏誕生（後の第25代）	
1945	昭和20年			太平洋戦争終戦
1947	昭和22年		新制中学校発足する （武生町立第一中学校） 武生商工会議所設立	
1948	昭和23年		武生高等学校発足 南条郡武生町、南条郡神山村と合併し「武生市」が誕生する 人口31,743人 福井大震災（M7.3）	
1949	昭和24年	第24代與一郎、山本仁左衛門襲名 8月9日、第23代山本直没（61歳） 1月、合名会社山本仁左衛門商店の資本金を200万円に増資		湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞
1950	昭和25年	合名会社山本仁左衛門商店を、 合名会社カラヤ金物本店に商号変更	武生市、丹生郡吉野村・ 丹生郡大虫村・今立郡国高村を編入 国立福井大学開学	
1951	昭和26年		武生市、南条郡坂口村を編入	サンフランシスコ講和条約調印
1952	昭和27年		第1回武生菊人形開催 （武生市・武生商工会議所主催） 国民金融公庫武生市支所開設	
1953	昭和28年			テレビ放送開始

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1954	昭和29年	【カラヤ株式会社の誕生】 5月2日、合名会社カラヤ金物本店の福井出張所を、「からや鋼機株式会社」として分離独立（現在のカラヤ株式会社の前身）	武生市、南条郡王子保村・ 今立郡北新庄村・今立郡北日野村を編入 新武生市庁舎起工式	神武景気始まる （昭和29年12月～昭和32年5月）
1955	昭和30年		南中山村と服間村、粟田部町に合併 武生市新市庁舎竣工	
1956	昭和31年		武生市、今立郡味真野村を編入。 粟田部町を「今立町」に変更 岡本村、今立町に合併 日信化学武生工場完成	水俣病 国際連合加盟 「もはや戦後ではない」が流行語に
1957	昭和32年		白山村合併決議取下げ 町立武生女子実業学校開校 （現在の武生高校）	南極に昭和基地建設
1958	昭和33年		武生トンネル（国道8号線）開通 万代橋完成	不況到来（なべ底景気） 東京タワー完成 一万円札の発行
1959	昭和34年		武生市、丹生郡白山村を編入 国道8号線（武生-丸岡間完成） NHK、福井テレビ開局	皇太子殿下御成婚
1960	昭和35年		武生市野球場完成	カラーテレビ放送始まる
1961	昭和36年		武生工業高校新設	人工衛星第1号打ち上げ
1962	昭和37年		北陸トンネル（北陸線）開通、 複線電化される	国産第1号原子炉点火
1963	昭和38年		豊橋完成 38豪雪（最大積雪＝福井市213cm、旧今庄町315cm） （武生市内積雪231cm、家屋全壊76棟）	名神高速道路が開通 ケネディ大統領暗殺 伊藤博文千円札登場
1964	昭和39年		武生商工会議所（堀川町）、 武生郵便局、武生警察署完成	東京オリンピック 東海道新幹線、 東京～大阪間開通

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1965	昭和40年		武生商業高校新設 福井工業高等専門学校新設	ベトナム戦争本格化
1968	昭和43年	3月、武生小松営業所を開設（水道機材係） 現中央営業所 7月、資本金1,800万円に増資	福井国体開催 武生市体育館完成 第23回国体(秋季)で、体操、軟式 庭球、軟式野球の3種目開催 三方五湖レインボーライン開通 福井市文化会館開館	川端康成がノーベル 文学賞を受賞 郵便番号制度実施
1970	昭和45年	5月、福井市に四ツ井営業所を開設 （水道機材係） 10月、小浜市に小浜営業所を開設 11月、現在の敦賀支店（敦賀市津内1丁目） を津内営業所（水道機材係）として、 敦賀市津内町2丁目に新たに 敦賀支店を開設	福井市大名町交差点 地下道完成	よど号ハイジャック事件 大阪万博開催 日本初の人工衛星 「おおすみ」打ち上げ
1971	昭和46年	7月、資本金3,600万円に増資 武生市家久町に家久営業所を開設 （二次製品係） 9月、家久営業所内に鋼材係を開設 10月、武生市蓬萊町に武生東営業所を開設 （機械工具建築資材金物）	福井鉄道南越線の粟田部- 戸の口廃線	第二次ベビーブーム
1972	昭和47年		北陸トンネル列車火災事故、 死者30人・重軽傷719人	沖縄返還 グアム島で 横井正一軍曹生存発見
1974	昭和49年	4月、武生家久営業所を武生鋼材センターに 武生小松営業所を武生中央営業所に改称 4月、武生市幸町に武生東営業所 家庭電化センターを開設		フィリピンで 小野田少尉生存発見
1975	昭和50年	1月、敦賀市に敦賀支店長沢鉄鋼センター を開設 5月、津内水道営業所を、布田営業所に移転		第1回先進国首脳会議 新幹線、博多まで開通
1977	昭和52年	9月、武生家久鋼材センターに 機械工具営業所を開設 10月、家庭電化センターを 武生西営業所に統合 10月、武生市蓬萊町4号16に住宅設備 厨房製品展示場を開設	県総合グリーンセンター開所 福井県立美術館開館 ショッピングタウン「ピア」開業 真名川ダム完成	日航機ハイジャック事件

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1979	昭和54年	12月、小浜市湯岡に木造長尺瓦棒平家建 倉庫297.85㎡1棟新築		東京サミット 自動車電話サービスが 開始
1980	昭和55年	4月、武生市家久町46に第4倉庫1棟新築 （鉄骨長尺瓦棒平家建1,044.9㎡）	武生市文化センター 武生市高瀬に完成 北陸自動車道 敦賀～米原間開通 ショッピングシティ「ベル」開業	
1981	昭和56年		福井鉄道南越線的全線が廃線 となる(粟田部-武生) 56豪雪(最大積雪量=福井市 196cm、旧今庄町231cm) 死者15人・負傷者134人・ 住家全半壊2827棟(福井県全体)	ポートピア開幕
1983	昭和58年	【カラヤ三協の誕生】 6月、株式会社カラヤ三協設立	日野大橋完成 アイシン・エィダブリュ工業 池ノ上本社工場が設立 福井県立博物館開館	東京ディズニーランド 開園 青函トンネル貫通
1984	昭和59年	6月、武生中央総合センター開設 9月、小浜水道機材営業所開設	福井FM放送、放送開始	グリコ森永事件
1985	昭和60年	【ヤマモトスチールの誕生】 7月、株式会社ヤマモトスチール設立	フェニックスプラザ開館	日本電信電話公社、 日本専売公社が民営化
1986	昭和61年	9月、創業120周年記念式典		
1987	昭和62年	1月、株式会社ヤマモトスチール 武生営業所・福井営業所開設 【カラヤレンタリースの誕生】 4月、カラヤレンタリース株式会社設立	武生東高校開校 国道8号線バイパス武生区間 全線開通	携帯電話サービス開始 NTT株式上場 国鉄分割民営化
1989	平成元年			昭和天皇崩御 元号が平成に 消費税3％開始
1990	平成2年	10月、長沢営業所倉庫増築	フィンランド音楽祭イン武生開催 今庄365スキー場開業	湾岸戦争 雲仙普賢岳200年ぶり 大噴火
1991	平成3年		天皇・皇后両陛下下行幸啓ご視察 （武生市文化センター・ 武生市中央公園） 万代橋歩道橋完成	バブル崩壊 ソ連崩壊

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
1992	平成4年	1月、CI導入。カラヤ金物株式会社をカラヤ株式会社に商号変更	福井市立みどり図書館開館	大相撲、貴花田が史上最年少で優勝
1993	平成5年	12月、福井県下主要地方公共団体へ寄付開始		国内でインターネットサービスプロバイダが誕生 Jリーグ開幕
1994	平成6年		武生駅市街地再開発ビルの建設工事着工	松本サリン事件 関西空港開港
1995	平成7年		サンドーム福井完成（こけら落とし=五木ひろし） （パンタドーム工法 施工=熊谷組・鹿島建設・前田建設工業JV総工費221億円） 「越前万歳」、重要無形民俗文化財に指定される	Windows95 発売 阪神・淡路大震災 オウム真理教による地下鉄サリン事件
1996	平成8年	創業130 周年記念式典（サンドーム福井にて800余名参加）		三菱銀行と東京銀行が合併し「東京三菱銀行」が誕生
1997	平成9年	11月、敦賀水道機材営業所を敦賀市助生野に移転 11月、大西エンジニアリング株式会社設立	ロシアタンカー「ナホトカ」船首座礁、三国町沿岸重油流出 武生商工会議所・商工会館落成	消費税が5%に
1999	平成11年	10月、布田営業所を移転し、敦賀建設資材営業所に改称		IT バブル
2000	平成12年	5月、カラヤレンタリース株式会社寮町新事務所開設 11月、小浜水道機材営業所を新築移転	福井県立恐竜博物館開館	2,000円札発行 Y2K問題
2001	平成13年	10月、カラヤレンタリース株式会社丹南営業所開設	仁愛大学開学	ユニバーサルスタジオジャパン開園 アメリカ同時多発テロ(9.11)
2003	平成15年	1月、大西エンジニアリング株式会社を商号変更し、カラヤエンジニアリング株式会社に改称	えちぜん鉄道全線開通 小浜線電化開業 若狭路博開催	イラク戦争 アジアを中心にSARS大流行
2004	平成16年		福井豪雨により県内各地大被害（旧美山町の総降雨量285mm）	新潟沖中越地震
2005	平成17年		武生市と今立郡今立町が合併、「越前市」に（合併時人口8万8千人） 第20回国民文化祭ふくい2005が開催	JR福知山線脱線事故

西暦	和暦	カラヤの動き	福井県・武生の動き	日本・世界の動き
2006	平成18年	創業140周年記念式典（社員対象）	越前市中央図書館開館	ライブドアショック
2007	平成19年		アオッサ開業	リーマンショック
2008	平成20年			南部陽一郎氏、ノーベル物理学賞受賞 米大統領選、バラク・オバマ氏が当選
2009	平成21年		「第60回全国植樹祭2009ふくい」開催、天皇后両陛下の行幸啓	消費者庁発足 裁判員裁判スタート
2010	平成22年		コウノトリが40年振りに飛来	小惑星探査機はやぶさ帰還
2011	平成23年	7月、敦賀建設資材営業所を移転 敦賀水道機材営業所と統合し、木崎営業所に改称	北陸新幹線敦賀まで延伸決定	東日本大震災 テレビ放送が地上デジタルテレビ放送に サッカー女子W杯、なでしこジャパン世界一
2012	平成24年	2月10日、第24代山本仁左衛門没（94歳） 5月18日、第25代正敏、山本仁左衛門襲名	北陸新幹線の金沢・敦賀間着工	東京スカイツリー完成
2013	平成25年	10月、木崎営業所に太陽光発電装置設置		長嶋茂雄氏、松井秀喜氏に国民栄誉賞
2014	平成26年		舞鶴若狭自動車道全線開通	消費税8%に
2015	平成27年	1月、株式会社ヤマモトスチールの資本金を2,000万円に増資	敦賀気比センバツ初優勝	北陸新幹線金沢～長野間開業 マイナンバー制度スタート
2016	平成28年	2月7日、第25代山本仁左衛門、福井県産業振興功労者表彰受賞 10月、創業150周年記念式典	JR福井駅西口再開発ビル「ハビリン」オープン	熊本地震 北海道新幹線開業 G7伊勢志摩サミット リオデジャネイロオリンピック

カラヤグループ社員大会 歴代スローガン

毎年全社員からスローガンを募集し、最優秀の作品をカラヤグループのスローガンとして表彰しています。
そのスローガンは、週初の朝礼で唱和して意識の統一を図っています。

- 昭和60年 「初心に省り頑張ろう」(初回)
- 昭和61年 「和をもって、激しく燃えて120」
- 昭和62年 「『創業の心をもって挑戦しよう!』確かな目標、確かな数字、確かな仕事」
- 昭和63年 「一人一人の自信と自覚で目標達成」
- 平成元年 「忘れるな!問題意識と自己目標」
- 平成 2年 「カッチリ売って、ライバルに差をつけ、ヤルゾみんなで目標達成」
- 平成 3年 「人をたよるな!己をたよれ!目指せ一筋 会社のエース」
- 平成 4年 「軒昂(けんこう)が、すべてを決める基となる」(軒昂=意気が奮い立つさま)
- 平成 5年 「新進気鋭! やるぞ戦力みんなが主役」
- 平成 6年 「忘れるな 笑顔で応対 背中に感謝」
- 平成 7年 「『私がします』 一歩前で出て心をつかもう!!」
- 平成 8年 「感謝の心で130 さらに飛翔がんばろう」
- 平成 9年 「たゆまぬ努力 不言実行 目標トライ!」
- 平成10年 「ファイトで行こう! みなぎる力で明日への挑戦!!」
- 平成11年 「感謝の心と不屈の精神。みんなでめざそう明るい未来」
- 平成12年 「新世紀 毎日コツコツ信頼を 小さなことでも慎重に」
- 平成13年 「新世紀 みんなの力と知恵を出し 素直な心で真剣勝負!!」
- 平成14年 「生み出そう!! 秘めたる能力引き出して キッチリやろう全員で!!」
- 平成15年 「謙虚な姿勢で信頼高め 日々なる努力で さらに進化!!」
- 平成16年 「誠意と熱意でつながる心、深まる信頼心意気」
- 平成17年 「日々の反省怠らず 切磋琢磨に何事も 粘り強くたち向かおう!」
- 平成18年 「守ろうカラヤの歴史と伝統 やる気と元気で輝く未来」
- 平成19年 「人の輪! 知恵の輪! 絆の輪! 明日への活力 夢と未来のある職場」
- 平成20年 「地道な努力が実を結ぶ 皆(みんな)の努力が未来を築く」
- 平成21年 「チェンジ・チェックでチャンスをつかめ!! 元気な職場に明るい未来」
- 平成22年 「なせば成る、厳しい時代を切りひらき」
- 平成23年 「夢を持ち、多くの困難乗り越えて 飽くなき挑戦! 目標達成!!」
- 平成24年 「やる気一番!! さらに飛躍。繋いでいこう カラヤの絆」
- 平成25年 「はたそう責任、つくろう信頼 みんなで育む 夢ある未来!!」
- 平成26年 「良い職場 ひとりひとりの意識から よい仕事 ひとりひとりの意欲から!」
- 平成27年 「まずは確認! しっかり相談!! ひと手間惜しまず『報・連・相』」
- 平成28年 「繋げて受け継ぐ「150」 みんなで拓こう 未来の扉」

編集後記

カラヤ株式会社創業150周年の節目を迎え、無事ここに記念誌の発刊ができましたことは誠に感慨無量であり、これまでご協力を頂きました皆様方に深く感謝申し上げます。

発刊より約2年前の平成26年10月29日、第一回目のカラヤ株式会社創業150周年記念事業実行委員会が開催され、そこで正式に記念誌の発行とその担当が決まりました。記念誌の編纂委員は入社後3～10年のメンバーであり、何から手をつけるべきかと悩み、最初の仕事は記念誌発行のマニュアル探しから始めたものです。記念誌は、資料集めや証言、関係者の協力が不可欠であり、当初は資料集めより始めて少しずつ積み重ねていきました。

会社の資料、社長自宅の資料、国立国会図書館(デジタルコレクション)、福井県立図書館、福井県立文書館、福井県立歴史博物館、越前市立図書館、越前市教育委員会、知人、各種の文献等から収集、歴史の重みや資料から感じる当時の息遣いを感じながら作業を進めていきました。その過程で、その時々時代に想いを寄せながらカラヤのこれまでの歩みを感じ取ることができ、編集に携われたことは大変幸せでありました。表紙の「感謝・爛爛・躍動」は、日々感謝の心で光り輝き、今後も力強く活動していきたいとの思いを込めました。それぞれの頭文字は、「カ・ラ・ヤ」となっております。

最後になりましたが、お忙しい中寄稿頂きました皆様方、ご協力頂きましたすべての方々に、重ねて心より御礼、感謝申し上げます。有難うございました。

平成28年10月15日

カラヤ株式会社創業150周年記念誌編纂委員会



参考文献・WEB |

国立国会図書館(デジタルコレクション)、寺田儀一「正道院実践日仁居士」、
福井県金物商組合「80年のあゆみ」、武生の電話70年のあゆみ、福井県史、
福井経済同友会・企業経営委員会レポート、福井県の歴史／地域経済ラボラトリ、
越前市／越前市の歴史年表、越前市統計年鑑、武生市史概説篇「抜粋」近代、
たけふ歴史探訪(上巻)、国高地区のあゆみ、昭和39年発行「たけふ」

協力 |

越前市立図書館、福井県立歴史博物館、福井県立図書館文書館、
株式会社福井新聞社、小川利男氏、大野市役所、武生商工会議所、越前市、
越前市教育委員会

カラヤ株式会社創業150周年記念誌

感謝・爛爛・躍動 カラヤの150年

2016年10月15日 発行

発 行／カラヤ株式会社

〒915-0814 福井県越前市中央二丁目6番5号

TEL.0778-22-2109 FAX.0778-22-9567

<http://www.karaya.co.jp/>

企 画／株式会社ニュー・フェイス

印刷所／足羽印刷株式会社